戰鬪的雜誌

進め

第三年◆一月◆第一號

一部十錢

進め社

…三年第一號大正十四年一…

◇暗愁の新年より理想の彼方を望みて……(卷頭言)

—時 論—

◇不景氣の十四年と無產者の運動……高橋龜吉
◇小作調停法はどう適用するか……布施辰治
◇言論機關を膺懲せよ……宮城潮作
師走風……渡邊理治
◇出來上つた膳立……大路龍一郎
◇社會主義派陣營の內亂的傾向に鑑みて……石川準十郎
◇力は組織より生る……吉田一
‖「進め」讀者への一提案‖
無產青年の全國的大同團結を作れ 日本無產青年同盟……石川生
◇方向轉換論に就て……橋本冬波
◇本流を槽げ……長沼生
◇自由人と革命人……田中和雄
◇郡築村小作爭議……一讀者
◇大正十三・四年に於ける社會運動の回顧と豫想及希望並に批評……同志諸氏
◇團結權に基づく只一つの武器……吉田源治

—青年運動—

◇社會運動に於ける青年運動の役割……佐藤光敏
◇青年運動に附いて……北村春男
◇起て無產青年……大森眞市
全土戰報……各地同志數名
何處へ行く—歌—獄中にて……△△生
◇只一つの使命……三村みつ子
◇東北地方に於ける農民諸君へ……嘉生

研究資料

◇唯物史觀に於ける經濟の概念……高畠素之
◇近世社會主義史(四)……春田正

社告

(1) 本社東京移轉

同志諸君に告ぐ。我が「進め社」は今回東京市芝區櫻田久保町十九番地に移轉した。而して編輯所は芝區新櫻田町十九番地辯護士山崎今朝彌方に置くことになつた。

大正十三年度に於て我「進め」誌はこれを發行すること正に十有一回、而して發賣禁止に會ふこと正に五回、頁を裂き去つて漸く發行を許されたること二回、何等事無きを得たること僅に四回である。我が官憲の暴今にして初まれる所に非ずと雖も、思ふて誰かこれを憤らざるものありやである。

我が「進め」は進展の事情に鑑み日新なる無產階級運動の進展を深く期する所あり、此處に既に年來震災にて「大阪落」とし以來常に間違さなつて居た「東京戻り」を斷行することにし、東海道風雲急き師走の候を接して上京するになつたのである。かくて新機軸へ。近く、再び我等の旗は翻へる。

本社は東京に移れるも、大阪海老江には尚「進め社關西宣傳部」を置き、一群の同志が殘つて居る。特殊機關としては雜誌「戰ひ」を發行する筈である。

官憲の迫害如何に激しくも、我等に尚頗る腕ある。大正十四年度に於ける我等の活躍を活目して待て。

(2) 同人檢擧事件

去る十一月下旬、福田狂二上京不在中「大阪進め社」に於ては突如在社同人全部檢擧せられ、社は四回に亘つて嚴重な家宅搜索を受け、原稿其他押收せられた爲に、「進め」十二月號は休刊の止むなきに至つた。當時の在社同人は大路、辻山、田代、樋口、上西、渡江の六人。六人の中既に釋放されたる者もあり未だ釋放されざる者もある。尚この「大阪進め社」檢擧に次いで關西に於ては「進め社」關係の數十名の同志諸君が檢束された。その判明せる所をあぐれば下の如し。和歌山にて林重雄、濱田周一郎、和田長三、卿瀨幸三其他。岸和田にて山本辰興、坂本逸次、奧東洋、下田逸六、古井幸次郎其他。神戸にて上西一郎、竹内一美其他。名古屋にて紺野大三郎、片桐市藏其他。原因は我々には分らぬ。

(3) 研究坐談會開催

「進め社」はその本社東京移轉を機に、爾後每月十日夜(七時より)芝區櫻田久保町十九番地本社に於て研究坐談會を開く。今迄幾度か宣言して乍ら世話人多忙のため開催せざりしが、今度こそは本月より間違ひなく開催す。同志諸君大いに參加せられよ。時々知名の先輩を呼んでその意見を聽取する事もする。今度の「進め社」二階は優に百人を容るに足る。二階が落ちない限りに於ては、如何に怒號するも差支なし。「進め社」をして鐵の如き鬪志の「マルキシズム鬪士」の道場たらしめよ。

古人云ふ。「心頭滅却すれば火も又涼し」と。何ぞ、少し許りの迫害に屈せんや。(完)

編輯室

◆本號から米國伯爵山崎今朝彌氏が編輯監督なることになつた。山崎氏如何なる理由で米國伯爵と稱せらるゝのか知らないが、辯護士の伯爵が一々伺閲するのだから、これからは發禁の心配もあるまい。伯爵の命に曰く「發禁を受けぬものを作れ」と。その命を敬服して作つたものが本號だ。

◆我々は一貫してマルキシズムで行く積りだ。マルキシズムは今や片々たる飜譯氣風を去つて眞に日本の社會事實に批判を下すべき時機に達した樣に思ふ。我々は其の爲には骨肉を削るが如き研究と臥薪嘗膽の行ひを辭しない積りだ。

◆「進め」が東京に移つたのを機とし、改めて又同志諸君の援助を幾重にも乞ふて置く。先輩諸氏も大いに原稿を書いて戴きたい。(石川)

◆東京に移りても戰鬪雜誌に依然たり。福田社員は左手に劍を按んじ、右手ペンを走らす、昔の武士の戰場で矢立を以らして風流なりし如く、我等は戰になり、キリストに非ず、墳墓に入るも戰はん。

◆進めは初號より、二年數度か陣容亂れ傷きしものは去り、殘れるは皆一騎當千の強者。と最近入りし布施、山崎、鈴木小牧の氏は何れも腕も世界有數の強固なる思想家達である。(福田)

◆實際に戰鬪雜誌の面目を、確立せんとする「進めの社」は、再度日本に於ける社會運動の策源地であろ事を万人共に許し、又事實に於てそうであろ東京に本部を移して過去の醜な總をて一掃すると同時に陣容を新しく立て直した。依つて今後進めの活躍は注目に價ひす可き事を斷言する。

▲「進め」としての故鄕に復歸してより一回の編輯を終つた。十一月から十二月にかけ事件突發のため意の如く面目を一新する事の出來なかつた事を同志諸氏に一言斷つて置く。(大谷)

暗愁の新年より 理想の彼方を望みて

資本主義經濟組織は必然的に經濟的恐慌（不景氣）なるものを繰返す。無產階級はその度毎に飢餓の線上に曝される。日頃さへも賃銀制度と云ふ搾取形態の鐵鎖の下に繋がれ辛うじて生命を維持して居る無產階級は、この經濟的大混亂、大暴風の來る度毎に、飢餓なる生死の闇の中に彷徨する。見ろ全國無產階級の阿鼻叫喚の聲を。然り資本主義制度の下に於ては無產階級にも自由がある餓死すべき自由がある。光榮ある餓死の自由がある。見ろ、今や全國津々浦浦にまで充てるこの自由を。

資本主義治下に於けるこの恐慌それは物が足りないからではない社會の一方には物が山積されてその賣れざることを嘆いて居る。それは物を作る力（生產力）が足りないからでもない。社會の一方にはその生產力が剩餘休止されてそれがために失業者が巷に群をなして居る。物があり、物を作る力もあり、而して社會の大多數即ち無產階級は貧困のどん底に呻吟して居る。これが資本主義と云ふものの正體である。資本主義社會に於ては、斯様に其一方に緊切な需要があり、他方に供給の力が有り餘つて居乍ら、貧乏と云ふ矛盾にその大多數が沈淪呻吟して居る。而してそのそもそもの原因の何處に在るかは、我が社會主義經濟の外に指摘して居る所である。窮狀の曲者は主義的私本「資有財產制度そのものに他ならぬ。

今やこの曲者の魔手に基づく無產階級暗愁の黑雲は四方に滿つ。新年を迎へても無產階級に何の喜びあらんや。無產階級の胸は深く暗愁に閉ざゝれて居る。生きんか生きざる可からず、然しその生きるの途困難なるを如何せん。げに人生れてプロレタリアとなる勿れ。一生の行路資本主義の鐵鎖につながる。

然し乍ら、我等は既にプロレタリアである。光榮ある餓死の自由を有するプロレタリアである。そこに我等の力がある。而して力がある所には道がある。我等は徒らに拱手悲觀すべきではない。

人類の歷史を見よ。纂居者なる搾取する者は必ず亡ぶ。それは人類社會生活の必然である。人類が滅亡せざる限りに於ての必然である。壓伏の下には常に反撥の力が成長する。

資本主義經濟組織は生るべくして生れた。封建制經濟組織が最早人類の社會生活に不適當になつた時、資本主義制經濟組織はその適當なものとして生れて來た。されば資本主義經濟組織も人類社會生活の必然が生んだものである。資本主義經濟組織も其當初にあつては、人類生活に益したものである然し乍らそれは又發達成熟するにつれて次第に不適當なものになつて行く。資本主義經濟組織は最早人類の幸福と一致しない。新しい黎明は此處から開展する。

黎明の幕を引く者は無產階級的青年である。彼等はその歷史的使命を與へられて居る。彼等の歷史的任務は重い。此處に彼等の努力がある。資本主義經濟組織は純機械的には崩壞しない。夫は物的要素と共に人的要素を必要とするマルキシズムの資本主義破綻說は人間の努力を無視した必然論だとは屢非難される所である。けれ共まことにブーデインも云ふ如く、マルクス學說の中にはその何處にも人間の努力を無視した必然論は說かれて居ない。寧ろそれでは反對に、人間の努力を必然的要素とした「道德的破綻論」である。人類はその滅亡を欲せざる限り必然的に擇ばなければならない唯一の進路である。

眼を上げて見よ。無產階級は何處より何處に向つて歩みつゝあるか、暗愁の闇の中を凝視せよ。既に一群の無產階級青年は默々として彼方を指して歩みつゝある。陽は正に上らんとする。彼方には理想の光りが輝く。聞け「資本主義私有財產の終焉の鐘が鳴る。收奪者が收奪される」日は近づいた。（石川）

時論

不景氣の十四年と無産者の運動

高橋龜吉

一

大體ならば、不景氣の際には、賃銀値下反對乃至賃銀維持を中心とする勞働爭議が起るのが資本主義經濟の常態である。成る程、失業問題はいつもの不景氣の場合の如く、今度も起つてをる。しかし今度の不景氣はいつものそれとは違つて、賃銀引下げ反對を中心とする勞働爭議を、今後引起しさうにもない。そのわけは、我が爲替相場が騰落したからである。

二

爲替相場の下落は、之を資本主義經濟の作用から云へば、一種の賃銀値下げである。唯普通の賃銀値下げと異る所は、一は名目と實質とを一所に引下げるに反し、爲替の騰落によるそれは、實質賃銀のみを引下げる迄である。具體的に云へば、爲替下落による賃銀の下落は、物價を騰貴せしめて、資本家の採算から云へば、事實上、賃銀を引下げて利益を增したと同じ結果になるし（之れ最近株式市場に於て株價が騰貴を辿りつゝある主なる所以である）名目上の賃銀は依然變らないが、實際の生活は、賃銀の引下を喰つた場合と同じく困難になる。

三

所で、爲替の下落ば、直にそれだけ物價を騰貴せしむるものでなく、その作用の現れるには可なりの期間をおかねばならない。例へば最近の對米爲替相場三十八弗半は、震災前後の相場四十九弗に比せば二割一分餘、平價に比せば二割三分近くの下落である。然らば物價はそれだけ騰貴したかと云ふに、未だ決してさうではない。しかし、爲替騰落の影響は今後に於て徐々に物價の騰貴となつて現れざるを得ぬ。この際に於て、始めて無産階級の生活者は——爲替下落即ち變形せる賃銀引下の結果——は現れるわけである。それはいよいよ今大正十四年に於ける出來事である。

四

しかるに、他方海外の財界を見るに、いよいよ戰後の大景氣時代に好轉しつゝある。その結果として日本の財界も好轉せざるを得ない。この世界的財界の好轉と、爲替の騰落とによる物價騰貴とが一所になつて現れる外、更に、復興後睡計畫の進捗に伴ふ通貨膨脹の影響が加重する。勢ひ、今大正十四年には、物價はいよいよ騰貴し、無産階級の苦痛は更に加重するであらう。其の點に於て起るものは、生活難から來る社會不安である。之を目先き滲澱せんとする無産階級の運動は、賃銀値上げの要求を中心とする勞働爭議である。

思ふに、今十四年の勞働運動は不景氣時代の常態に反して、賃銀値上げ問題を中心とする、頻々たる勞働爭議に見舞はれることであらう。しかし、それは、大觀して下半期に入つて後のことであらう。それ迄は不景氣に基く社會運動の中心は專ら、失業者の救濟を目的とするものであらう。

小作調停法はどう適用せらるゝか

布施辰治

愈十二月一日から小作調停法が實施せられたが當事者どちらからかの申立が無ければ、どんなに澤山の小作爭議が續出して、且つどんなに猛烈に闘はれようとも、進んで其の適用を強制することの出來ない小作調停法は、果してどの位の適用率を示すであらうかは極めて興味の多い問題である。

小作調停法實施の目的は、其の内容自體が最も如實に地主側の主張を代辯して、地主は地主として何時迄も勝手で生活の出來る地主と、小作人は小作人として何時迄も死なない程度の生きらるゝ搾取に甘んぜしむる地主階級小作人階級の存立を其の儘に、所謂公平な小作爭議の解決を秘密裡に妥協させようとして居るのであるから、總ての小作爭議に左樣した小作調停法を適用したいのが地主及當局の希望であらう。

けれども、最早小作人の頭がズット進んで居る、如何に地主小作人いづれの階級にも囚はれない公平振りを看板とする國家の制定した小作調停法でも、其の内容を見ないで、國家の制定した法律だからと云ふて、之れに盲從する樣なものはない、國家の爲めと云へば、直に生命を差出しても惜く無いほどに、國家と云ふものに盲目的崇拜を捧げて居た迷信は、今の小作人には無い、恐らく今度の小作調停法を立案した連中こそ國家と云ふものには誰れでも尊崇公平を捧げ法律と云ふものには誰れでも服從の義務を感じて異れるに違ひない。從つて今迄の小作爭議で、地主が自ら其の利益を主張したから其の主張の善惡が批判せらるゝのであり、其の合理不合理が爭はれるのであつて、容易に圓滿なる解決を見る事が出來なかつたとして

師走風

渡邊盟治

▲高尾事件、二月の公判の豫想どほり。桃栗三年、柿八年、米村五年で保つテナことが　六法全書の赤化防止に對する治維法らしいとは、戰線同盟内部の噂。

▲噂と云へば、畏れ多くも皇后陛下の御西下を期として『某重大事件の發覺』と云ふ騷動があつたが、こいつも例に依つて例の通り、『新聞のウソ』から出た、ウソ也事に違いなからうと思ふ、がその爲めに名、京、阪、の留置場は所謂キケン人物をもつて滿員の盛況とある。

實に斯の如き警察權の行きとゞき方と、疾風的一網打盡の行動は、師走の風に監視附でフルエてゐる〇〇と共に頭にヒラメク、アルモノかあるが、今は只賀川豐彦流に國家の爲めに萬歳祝福してをかねばならぬ。

▲陰險にして悪辣、傲慢にして然も冷酷なる、專制の礎石となつて一切を叩きつけてゐる、黑シャツの伊太利に『正義の爲めには武力も厭はず』と起つた一團があるさうた。堅視綜合、執行の文字にチヾミアガルの大和魂の國士に米國と戰へなんテ云い得るの資格あるか。

▲爭ひには理窟があり、理窟には原因が附きもので原因には結果が附きものた。たがその原因は知ら

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、一度び地主の主張を國家の主張として之を代辨して貰へば、解決も無く片付くものと考へ居るのであらう、

只此の場合、彼等の恐るゝ處は社會批判を仕さする智識階級のワルサである。彼等の所謂煽動階級の惡智慧である。故に斯うした連中には小作爭議がどう解決したかを知らしめない如うにして只當人が得心して解決したと云ふ事にさへすれば夫れで良からうと云ふ事から秘密主義を取つたのであらう

併しながら、今日の小作人は斷じて彼等から左樣見クビラル、如うなものでは無い。最も多數の小作人中には、未だヘッキリした階級意識に徹つて居ないものもあらう、そして現在當面の小作料減免にのみ小作爭議の意義を認めて、只イクラか小作料が減免せられは夫れで良いと考へて居るものもあるが、階級意識に目覺めた小作人の多數は、小作爭議解決の勝敗と共に其の勝敗を決する爭議の戰術に大なる意義を認めて居る。

タトへば、小作料の減免額が同じでも、之れを法廷戰の勝訴に得たのと、直接交渉の個人抗爭――若は、團體結出の壓倒的勝利に得たのは大いに其の意義を異にする。然に今度愈々來る十二月一日から實施せらるゝ小作調停法が果してどんな適用率を示すかの問題があるのである。

小作調停法の適用は、爭議當事者の一方である地主からでも、小作人からでも、之を五分々々に求むる事が出來るのであるから、ほんとうに小作調停法が公平なものであつて、調停裁判所なり調停委員會なりか、又、ほんとうに公平なものだとすれば、爭議當事者双方の思案に餘つた小作爭議は、地主か小作人からの申請に依つて、其の總てが小作調停法の解決を俟つべき筈だと云ふ事に爲るのであるが、事實は恐らく小作人から、小作調停法の適用を申請するものは絶無であらう。

其の先例は、借家爭議に對する借地借家調停法に於て、其の例を見て居る。

偖て然らば、小作調停法に於ても、又、地主側から澤山な小作調停の申請があるかと云ふと、私は大に疑問だと思ふ。ナゼなら前の借地借家調停法は、我國に於ける調停法最初の試みであつた丈けに、隨分借家人側でも、調停法と云ふ極めて便宜な今迄の裁判よりは、大變新切な取扱方をするものだと云ふ考へで出て行つたが、其後の八幡の藪其の儘、ヨク家主側の爲に爲つて仕舞つた爲めに、家主共は相當の効を擧ぐる事が出來たから、家主側は盛んに之を利用したのであるが、今や調停法制定の法律對策は、矢張り無產階級を絞るに手を代へ品を代へた手段であつて、矢張り無產階級を絞る手段たる事には二ツは無い、絞殺さるゝものから云へば、荒繩で絞殺されても、眞綿で絞殺されても、殺される結果は同じであると云ふ事を知るものは、恐らくイクラ地主側で小作爭議調停の申立をしても、小作人側では之れに應じないであらう。

此の場合、呼出しに應じないものには罰金を喰はせると云ふ規定があると云ふが、それは正當の理由なくして呼出しに應ぜざるものに對する罰則であつて、正當な理由を有するものゝ呼出しに應じないのを罰する規定では無い。そして其の所謂正當なる理由の如何は元より個々の罰測であるが、初めから調停に應ぜざる考へたからイカヌ、調停法を否定するからイカヌと云ふた處で、マサカに徵兵忌避の罰則を適用する如うな工合に小作人を罰する譯には行くまい、斯うした規定從來の適用を見ると無產缺席が罰せらるゝに過ぎないのだから、左樣心配するには及ばない。

更に、モ一一つ小作調停法で、大に注意すべき問題は呼出しに應じて出て行つても借家爭議の如うに無產階級借家人が一人で出て行くのでは無く、必ず小作爭議關係者が大勢出て行く事に爲るから、今迄の孤立無援の中に入れた借家人をイヂメ廻して氣絶さしたりする樣な事は出來ない。從つて借家爭議に於ける調停成績の如く地主側の思ふ通りに、甘く行かないに定つて居る、果して然らば來る十二月一日から折角店開きする小作調停法は、小作人側からは勿論、地主側からも、あまりに適用を求むるものが無くなつて、結局餘り物に終りはしないかと思ふ。

言論機關を膺懲せよ

宮城潮作

自ら無冠の宰相と誇稱し、一國政治、一國體の運用に向つて常に容喙、誘惑を逞しふなし、之れを大にしては社會進化の潮流を逆挾し、小にしては一細胞の萌芽を蹂躙なし白日の下に己が汚面を顧みず、故意に人を捕へて、或は忠臣と僞稱し、或は逆徒公敵と罵倒し、人生至幸の道に誇り、輿論てふ假面を蒙りて、機ある毎に之れを利用なして、己が前途に汲々として、惡と知りつゝ之れを善化に強制し、善と知りつゝも之れを惡化に強制して憚らざる放族共と知りながらも吾等は血涙を呑みて常に進化線上の一員としての耳目を聽くべく讀まざるを得ざる此苦痛之れ資本主義社會の遊攻の閥禁に奢りたる現代言論機關の超梁腐行の罪惡にあらずして何ぞ。

その中にも陰險變化極まりなき微根を地中深く埋め、蛇枝の擴張

▲ないが、ブラジルでも米國と同じく日本移民を拒絶してゐるし、露西亞でもカーメネフ氏が日本は泥棒だとまでホエてゐる。世は不景氣で、大晦日も近い、どうだ〇〇〇〇〇〇。命が不用で闘士になりたい人が有つたら、誰れでもいゝ、餓死しないか

▲年の瀨がケチ臭いのを氣にして四萬人の首を切つて社會を陰氣にさせ樣との政黨の御役人が、大藏省にゐる。『こちらで泣かせても職業紹介所で又笑ふことがあるだらう、サスレバ、プラス、マイナス、イコール、ゼロ』だ。とは流石に日本の大藏省だけあつて、大晦日の算盤のヘジキ方も貧乏人とはケタが違ふ。

▲小作調停委員なるものが、大晦日になつて、突然地主の水先案内として、小作人の家のヤッテキタとある。

小作人諸君よ、今度と云ふ今度は、こんなものにたとへ一掬の憐みでも、かけてゐる方がヨッポド阿呆だと云ふ事が知れるだらう。

▲イッパシの政黨紳士氣取りで出かけた、勞働組合法案『議會の間に合ませぬ』でシゴク輕く、今年度は持ち越し、持越されても別に問題にもならないが來年度は置き忘れと原敬(トボケル)は出來。

▲神經過敏は現代人の長所の、それか文相閣下の頭に上つて、浪化節から學校劇に、更に上つて赤化防止から軍事教育に、發展し思想

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何等強盜の如くあるべきを以て、その紙面の唯一方針となす者は即ち部下に敢任せる大小新聞である吾等は新聞社そのゝの組織が資本主義制度の結晶即ち印刷機械、勞働者其他の凡ゆる生產能に依つて生れたる新聞紙の販賣利潤を彼等の主腦者が獨專しつゝある行爲に對して痛責を加へんとする社會主義者の啓蒙的突進に先たちて彼等が現社會に投げつゝある爆彈に向つて先づ鐵火を酬ゆべく決心をしなければならないと思ふ。社會大衆の前衛戰は即ち言論戰なるが故に、敵の言論機關を破壞し去る事は無產階級戰鬪中の哨兵戰である。吾等の母性大衆は微妙なる振動板にて作られたる樂器の如きものである。強弱大小の音色あるも意志表示たる言葉を持たぬ。即ち打ては響くの優韻あれども、問へば答へ、答ふれば問ふが如き狹偏性はないのだ、何故ならば大衆は常に安定(各細胞が働き行く途中、最も多くの細胞の集まり得る箇所)に向つて活動し活動を強ゆるには安定を前提としてのみ之れを活動せしめ得るに偉大なる効力がある、此の安定は一面大衆の意志表示の如く見ゆるも安定にはレベルあり、即ち此のレベルあるが故に向上もあり退去もあるので無限定なる進化線上に於て一時的なる集合點! それが大衆の意志たる極致の安定にあらざる事は明白であるのだ。それをば極致と云ひ停滯と云ひ無暗に價値づけんとする自度こそ眞に己が意志を價値づけたるものである。一例を擧ぐれば、往來東京の或スペイが普選擧運動に白熱化したる群衆(群衆と大衆は性質同樣なれども部分的と綜合的との差異あり)の先頭に立ちて『吾等の演說會は芝浦にあり』と絕叫して群衆を煽動してクツシヨン〳〵で芝浦まで來て見ると會場の準備等は愚か待ち構へたる警官の包圍攻擊を喰らつて散々な目に逢つた如きは前述の意味を寫實的に物語つてゐる。即ち芝浦を安定の極致と稱へたる官憲の價値批判の言は己が之れ以て利せんとする意志を赤裸々に晒し出したのである。群衆は芝浦でも日比谷でも芝山王臺でも兎に角極致の安定は表示してゐない。故に第二の活動に移つた時は最早官憲の意志表示點たる利用に反逆を企つるに至る、此處に即ち無言の進化が見れる。斯樣に微妙輕快なる振動性を持つ大衆をば、己が胸に包みたる俗歌の伴奏として打ち奏で、その背色を以て大衆自身の意志と早合點なし、惡逆無道の槌をば打ち振ひ、あはや靈魂を打ち碎かんとせし一刹那!不義の黑手は靈魂の歪力に依つて挫折されんとしたのである之何か?

言論機關に對する膺懲の叫び!撲滅の聲!之れである。

されど彼若し、確固たる手段主張の下に大衆を讚美し、擁倒し、眞に己れが雰圍氣に包まんとなら
ば、吾等も堂々彼等の武器たる言論に對して言論を以て酬ひんも彼等はその所旨の大衆の利害に基くの主義主張に非ず、又主義主張そのものに奉仕するが如き志士にもあらず、只己れが口先きを賣り己れが腹を肥すことのみを以て渡世となす、即ち言論屋と云ふ商賣人である。故に大衆の一部又は全體を支配する所謂權力者に對しては大衆の長短をその適者に賣り大衆に對しても支配階級の長短をばその適所に賣り歩く機會均等のプローカである。彼等は之れを以て思想善導又は上下相和すの榮職と自ら誇らんも若し己が打算に故障を生ぜんか、昨日の善者を今日の惡者となし今日の惡者は又明日の善者に立歸らしめんと努力する。而して策盡きては殊更に波亂を創りてブローカの繁忙を計らんとするのである。大衆は極致の意志を知らしめずと雖も、假定の焦點に向つて活動をなすと云ふ微動性を持つ事に彼等はつけ入りて無暗矢鱈に打ち續くるが故にまさに粉碎されんとしつゝあつたのだ。今此の歪力を極度に出さずんば遂に彼の好餌となり果つるの秋が來るのだ。況やその背景には吾等が日夜奮戰しつゝあるブルジヨア階級の操りあるに於ておやである。吾等は膺懲を手段としての粉碎が最終の目的である。

彼等の組織が純然たる資本制度にして彼れが商策になる販賣をば血涙を流して新聞紙と云ふ商品に生產し行く從業者諸君!知るや知らざるや無產大衆に向けたるその君等の手にある毒刄をば。

されど吾等は此の毒刄の尖端を消滅し去るに適宜なる第一戰法としては新聞紙の販賣力を驅逐せしむる事が焦眉の急であると信ずる一方法としては全國一齊に無產者の新聞不買同盟を作り一時的不便を凌ぐ爲め團體を各所に設けて數部の新聞を廻讀せしむる方法、第二としては新聞購讀團を各地方的に設けて故意に購買力を大新聞に結びつけ、小新聞の倒壞乃至蠶食の息を見掛けて、前述の不買同盟を勵行して行くので、今一つは新聞配達夫組合を極力宣傳し、普通勞働組合まで成立せし曉にはその全勢力を言論膺懲に置き組合員個人の要求外に此一大使命たる言論如何によるストライキを主義となさしめる方法、此の外に新聞工場內の從業員諸君の奮起だが、或方面でも着々この試みを遂つてゐるが、何うしても普通の勞働爭議的に流れて、言論機關の強制點を覘むことが難いと云つてゐるが、訓練を重ねれば漸次その域に達する事であらう。その他サラリーマンを徹底的に結束せしめ、薄給記者社員等の自覺による反旗!何れにしても吾等無產大衆は最後の安定に向つて突進しなければならない時恰も血路開拓の秋、大衆の一

普通から學生の思想研究撲滅に御慢性である。サテ來年度は、大學からも佐野[illegible]ち出まい。變りに赤防も解散だらう飯も喰へまい。

▲政友代議士『我黨一年來の主張に基いて』と、シカツメらしく出張ると、憲政代議士も又負てはゐずと『彼等の言辭は政府に對する爆彈だ』と怒鳴る。

パラツク式はドコマデも雨漏り式こんな奴等仲間が、所謂『我黨の政策』テフ、無形物を慾の深い地主に賣つて、告訴されるのも無理ない。

それが御丁寧にも千河白鳳と云ふに至つては、チト事が大牛樣だがヤツパリ、柄相應。

▲立てば　これを追ひ、入れば　これを落し、入れば更にこれを追ふ。このヘリ方、ハラレ方は支那のこと。米のゴンパースは得手に帆を張り、日本の總同盟は會長辭任に綱を張り。會長たるもの、こゝ辭任狀もつ手に寒く師走風。でもあるまいが、警視廳あたりでも新聞の重大事件や、大晦日とあつて大泥小泥に雜魚網を張り政黨屋は國民の前に見榮を張り藏相なんぞも教育費增額の心太豫算をさう突ッ放すかは見物だが。兎に角、金庫の前で背水の陣を張り、金融はペツタリ止んだが、ココ、ジバラクの間、天下ペツタリハラレタリは好景氣。

▲由來流に「一」の字の附くもノ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

部は政黨組織に依つて進まんとす。その是非はさて措き、此一塊の生命を保たしむるも是亦全大衆の四肢の一部を保育するに等し、政黨組織の是非批判は要するに、決定的價値を前提としての批判なるが故に、大衆の意志を引き戻さんとするよりも、進まんとする前途の開拓に安全燈の光りを投げやることそ自然にして彼が無言の大意志に添ふものと思ふ。吾等一細胞の分擔の義務は大衆の前衞へ〳〵と焦慮する處に全大衆の革命的意志は表示の色を濃はせ來るのである。然し此處にも無限定のレベルある事を反省しなければならない。世界革命史にある第二次、第三次、と云ふが如き運動！その革命がプロレタリアの雰圍氣に包まれても此の歴史は繰りかへし行く。そこに又新しき開拓がなければならない。要する政黨組織の前衞に出づる事は吾等の母性を保安地帶に運び得る必要手段である。此處に於て言論機關の革命は政黨組織の必須條件でなければならない。即ちブルジョアの言論機關の撲滅を計るには政黨組織中の細胞はこれに向つて全勢力を注がなくてはならない。

而して吾等は批判、是非、を唱へて居る場合でない。全大衆の四肢の鋒鋩をして之れ等を進めしめなければならない。而して培養せしめなければならない。培養に要する木鋏は改良性化を持つのではなく、即ち醜惡の枝をば絶對に鋏取り若し培養の見込なければ、根こぎにし母體に植え付け以て新しき方向轉換に出づるのである。故に培養は永遠に行はれる譯で、その土地に於ける改良性化をやるのではない。此處にも愛に凝結したる言論の膺懲を見る。即ち醜惡ならんとする已が細胞にも膺懲の前衞を張り詰める。而して膺懲は改良性化かと云ふに決してそうではない。破壞を目的とする手段である。破壞は建設を生むが故に。吾等は斯くして醜惡なる自己を膺懲し、敵の前衞へと突破して行く敵の前衞は吾が醜惡なる細胞に向つて頻りと握手を求める。之れ適者を摑まへて適所に賣らんが爲めの手段である。諸へ同志よ。霜深き朝、若き身空を無慘にさ　その屍に鞭打つが如き言論を選ぶなす跳梁跋扈し、公敵と闘り、逆徒と嘯く、之れ皆ブローカーの擾亂にあらずして何ぞ。撲滅せよ敵の前衞をば。

出來上つた膳立

大路龍一郎

今更の如く普通選擧案に對して云々する事は、どうかと思ふ。然し膳立が出來たらしい此頃に、幾等かその味を想像せずには居られない。

そしてその膳の上の珍味を想像する事と同時に、自分達の腹の工合も考へなければならない。

最近英國に於ける勞働内閣の出現に依つて、日本の解放戰線に、カラ風の吹き起くるやうに、一も政治運動、二も無產政黨組織と云つたやうに、政治運動が囃立てられ、一方には此の機を逸せじと急進ブル政治屋は、普選の膳立にあせり出した。

そしてその無產階級政治運動を當時から現在までの進み方を觀察すると、それは日本特有の社會運動の進み方である、理論のみの發達は、一瀉千里の勢ひでと言いたいが一瀉百里位の程度で以てどうやら現在まで押進めて來たが、さて具體化と云ふ事になると今迄での一瀉百里の勢ひも先づ一瀉十里位の處まで引下られてしまふ、そして其の理論的發達に於ても全く心細さを感じる、それが何故なれば、無產階級それ自體としての發達でなくして極少數の知識階級の間に論じられ考究されるのみで、當の無產階級の本隊は、その一部少數者の手足のやうに左右されるのみである。

先づ普選と云ふ膳の前に坐した無產階級の腹加減は多く言ふ迄もなく此の程度のものであつてその珍味を口にする場合も矢張り前者と同樣に、(飢へてゐる丈けに)味あふ事も知らずに喰はれるまゝに喰つてしまふであらう。

普通選擧は成程飢へてゐる無產階級には、一見一寸珍味であるかのやうに見へもし、考へも知られる。そして又それが無二の養料であるかのやうにも見へる。

(然しそれも用ひ方に依つては、そうなるであらう)

兎に角現在のまゝで普選が實施される場合には丁度劇で見る「千代萩の御殿場」を、そのまゝに社會運動乃至勞働運動に宛はめたやうな場面を見る事は明かである。

膳に向つてはしを取る前の第一條件として必然に多くの千松を出す事を覺悟せなければならない。

その覺悟として眞に此の政治運動そのものが全無產階級とはゆかなくともその一部分である勞働組合全體の欲求であるとするなら最近の勞働總同盟關東同盟會の分裂の如きは如何に考へても有り得可きでない。此の分でゆくならば議會利用などは夢にも考へる事は出來得ない、それと共に、普選の內容に對しても何であらうとそれも先づ現在として云々するのも野暮である。

只膳立の出來た案内を受けて考へたまゝ。

同志諸氏に告ぐ

新しく

布施辰治氏
小牧近江氏
鈴木厚氏
山崎今朝彌氏

右の四氏が同人として入社された事をお知らせします。

は人氣商賣か、或は人氣商賣ではなくとも、人氣商賣に蒋入り易いさうだ。言はれるまゝにチヨツト三四の例を上げて見ると、役者、藝者なぞ前の部に屬し、醫者、行者、學者なぞが後の部に屬するものであるらしい。が、又昔から人の懷ばかりニランデゐる御商賣に易者、修驗者ナンぞと云ふがあり。字は少々違ふが夜叉なぞと云ふ、今樣スパイ、ヨロシクの惡魔の親類スヂのものもあり。と、こふ數へて來た生活の手段を叫ぶ、生產の使者主義者に指を出すると、腹も立つし、イササカ淋しい氣もして無着者もする。が同志諸君もつて如何となす？これを一環でケトバス社會主義倫理か、方向轉換させる辯法はないものか。

▲方向轉換で思ひ出したが、實に大正十三年と云ふ年は方向轉換論に隨に穗が咲いて、社會主義學者や原稿屋諸君の當り年であつた。トワ、改造の代帳ルを通じて浮世を勝手口から覗いて歩く口善惡ない大晦日廻りの師走風の擬音モレ

▲大正十三年と云へば大地震の翌年で、今年の去年であつた位は、正月の穴ッ風にスキッ腹を吹きぬかれてゐる僞造ブロも暖かいストーブの前で女と酒に醉つパラつてゐるブル君も、又一生懸命に働は一番鷄の鳴く頃から夜の寐依由まで、穴巣ネライの人の好い小泥棒な迄かけまはしてゐる、ブル君の

社會主義派陣營の内亂的傾向に鑑みて

——マルキシズムの立場から——

石川準十郎

（一）社會主義派陣營の内亂的傾向

一九二四年度に於ける日本社會主義運動は社會主義派陣營内部に於ける内亂的傾向を、一つの重大な現象として、我々に示して居る様に思はれる。かうした社會主義派陣營の内亂的傾向はその據つて來る原因をどう云ふ處に持つて居るものであるかは、眞に一日も速かに、資本主義鐵鎖の下に繫がれて居る無産階級の解放を希ふ、社會主義者の考へて見なければならない所である。殊に社會主義學徒は、その眞に一日も速かに無産階級の解放を希ふものである限り、自然科學者が自然現象を觀察すると同じ様な態度でその原因の摘發に從事すべきである。蓋し、效果ある行動は全く正しき認識から初まる。敵を眞に射止めんとするならば先づ敵の正體をはつきりさ見て掛らなければならない。闇の中に發砲は徒勞ありて效果がない。無産階級解放原理としての社會主義の運動をして目指す效果を確實に遂げしめんとすれば、先づその現實に於ける内亂的現象の據つて來る動因を科學的に抉出すべきである。その動因の除去を志す價値批判の正確は唯この上に初めて期し得らるゝ。而してこの科學的觀察に當つては、個人の感情（社會的なものにしろ個人的なものにしろ）は禁物である。何故ならば、それは認識を濁らす惧れがあるからである。個人的感情がその觀察の動進力たるは許すべし。その觀察の成果とするは許すべからずである。而して、一度この動因を突き止めた上は、我々の無産階級解放原理として把持する社會主義に照しての價値批判（善惡の批判）に對しては極めて果斷であり、勇敢でありたい。我々は斯様な考へを持つものである。

所で最近のこの内亂的傾向は、所謂『共産主義』乃至『共産主義者』を中心として廻つて居るものの様に思はれる。最近それは『日本勞働總同盟』の『四組合退脱事件』及びこれに續いて起れる『四組合幹部除名事件』の如きも『總同盟内よりの共産主義及び共産主義者の排斥である』と云ふ噂乃至評がある様である。果して『共産主義乃至共産主義者』の排斥であるか、それとも日本の『所謂共産主義者（眞にマルキンストである）か否かは自ら別問題である）』の排斥に過ぎないか、其邊の確な事情は我々の知り得ざる所であり而して知らんと欲する所のものである。（『日本勞働總同盟』に起れる『四組合』問題の事情に就いては『進め』の立場に立つた日下部直哉氏の『進め』前號に於ける寄稿がある。之に就して『進め』編輯同人は、より明瞭に這般の事情を讀者と共に知らんが爲に、『日本勞働總同盟』の幹部たる赤松克麿氏に問稿を乞ふたのであつたが、遺憾にして氏の容れられる所とならなかつた。）『四組合事件』は只一例である。日本無産階級運動内部に於けることの『共産主義又は共産主義者』を對象中心として乃至その名に於ての渦巻は、相當の廣さ及び強度を以て醸されて居る様である。所謂『討閥運動』の如きも恐らくその一例であつたであらう。かうした現象が發生する場合、『無産階級の利害に根ざす原理』そのものの一つから來るとは極めて稀である。社會現象が發生するに從つては其の多くの場合、多くの動因が結合してその原動力をなして居る。この場合も多くの動因が交錯して、居るにに相違ない。問題はその最後の決定的動因を成して、居るものは何處にあるかである。そして、それは個々の場合に就て見るより他はないことである。而してこれは我々が正に成さんと欲して而も種々の事情に妨げられて多くの場合成し得ない所である。

今私が本文に於て試みんとする所のものは、『無産階級解放』の一つの『原理』としての『共産主義』に關はる一小研究批判である。

私は『共産主義』なる言葉に絡まるある無要な觀念からして、『共産主義』を排斥すること乃至『共産主義』を偶像化的崇拜する事に依つて、無産階級陣營の中に本來無要な内亂を釀して居る場合が相當あるではないかと思ふ。それと同時に私は又、『共産主義乃至共産主義者』の排斥して居ると思つて居ることが、その『共産主義』を排斥するのではなくして、所謂『共産主義者』と云はれて居る所のある部分の人々を排斥して居るものであることも、或はあることゝ思ふ。斯様な考へからして私は以下、『共産主義』及び『共産主義者』に就て考察し、更にその『マルキシズム』との關係にまで考察を及ぼして見たいと思ふ。

（二）所謂「共産主義」と「社會主義」

『共産主義』と云ふ言葉は本來『共有財産主義』を意味する。この場合には『社會主義』と云ふも同じ事である。然るに、實際はこの兩者は往々區別して用ひられる。而してこの區別には、（一）經濟的の區別と（二）社會主義史的の區別とがある。（一）の經濟的下

廻りのワン君も共にまた御忘れはないたらう。

何にしろ、二重事件、虎の門事件と次に玉家の爲めに起たもつて面白からざる事件の續發を見、地震のユリ返しはブローニングの口に煙を吐かせ、肖大將の髑髏蛇屍せしに辛うじて事件は終るなぞ加ふるに對米移民問題は全國的ボイコットを爆發に所謂國士さん方の鋼鐵壁音樂の鳴り物入りで、天保時代なぞには到底見られない、死者と旗泥鰌の現下的大車輪の痛快なる悲喜劇と、兎に角表面に現れたものだけであつても、國事は實に多端であつた。その他一ケ月に必ず一つはあつたであらうと思はれる配布禁止のイカモノ事件と數へ上げれば、國は富み兵は強ふして益々内憂あり、外ありとは警官もブロも勞らき甲斐も擦られ甲斐もない世の中。ト所詮は正月を境にアキラメが附かぬか

民衆運動社から今度進め社に客りました。が、私は到底マルクスが、ドウかうとか云ふて、文字通り紙面で話すことの出來る柄ではない。し、又話したくとも話せる私でもない。と、云ふたからとて決して私が無學を謙遜したり、自分自身の無學を他人に自慢する程の勇敢な男でもない。

寧ろ何か書いた後で、こんな屁話しを云はねばゐられない程、それ程正直な臆病な私の悲觀の極の悲觀の宣言であると見て下されば幸ひです。

の區別に於ては、『社會主義』とは「生產方面（生產爭鬪）のみの共有を主張するもの」であり『共產主義』とは生產方面（生產爭鬪）のみならず消費方面（消費資料）までの共有を主張するもの」であるとするのが普通である。この意味に於ての『共產主義』には『分配』なるものはあり得ない。或人には『各人の必要に應じて分配する』方法を採るものを以て『共產主義』たと思つて居る樣だが、この場合に於てはそれは『社會主義の一分配法』であつて、『共產主義』ではない。この場合の『共產主義』は『分配』なるものはなくして只『必要に應じて消費する』ものである。而して、今日我々が問題として『共產主義』『共產主義者』『共產黨』等と云ふ時の『共產主義』は、この意味に於ての『共產主義』ではない。それは（二）の社會主義史的の區別に於ての『共產主義』である。この（一）の意味に於ての『共產主義』は或學者が云つて居る樣に、今日では信奉する者は殆んどなく唯『無政府主義者がこれを拾ひ上げて居る』たけである。而してこの區別に於ては『マルキシズム』は明かに『共產主義』ではなくして『社會主義』である。（レーニンはレーニンの所謂『共產主義』の初期を以て、『社會主義』とし後期を以て『共產主義』として居る）。

（二）の社會主義史的の區別とは嚴密にはマルキシズム史的の區別である。初めマルクス及びエンゲルスは自分達の『社會主義』を、自分達以前の『社會主義』（主として彼等の所謂『空想的社會主義』）と區別せんが爲に、『共產主義』と呼んだ。一八四七年の作たる有名な『共產黨宣言』の如きはこの名稱を以て終始して居る。所がその後彼等殊にエンゲルスはその彼等の『社會主義』を主として『科學的社會主義』と呼ぶようになり又單に『社會主義』とも呼ぶようになつた。そして一般に又『社會主義』と呼ばるゝ樣になつた。そして歐洲戰爭前までそれでずつと來た。所が歐洲戰爭の勃發に當つて、從來『マルキシズム』の本統の如く思ひ且つ思はれて居た獨逸の社會民主主義者及び第二インタナショナルに屬する西歐の社會主義者の大部分は、當然社會主義から行けば反對すべきものを、戰爭に贊成した。而してこの一方には又一九一七年ロシアの政治革命が成就して所謂『ボルシエビイキ』が一躍ロシアの政權を掌握することになつた。此處に於てか、『獨逸社會民主々義流のマルキシズム』に飽き足らない西歐の急進マルキシスト達は、『ボルシエビキ』を中心として、新に第三インタナショナルを結び、その一方に又自分達の『社會主義』を現すに元に歸つて『共產主義』なる言葉を以てすることにした。蓋し『眞正マルキシズム』に立ち歸るの意味からなのである。

かくして一九一九年の『露西亞共產黨綱領』には次の如きことを宣言して居る。『共產黨インターナショナルは、各地に於て無產大衆のいや增す支持を受けつゝ、單にその既に採用せる名稱に於てのみならず、その理想的、政治的の教義に於てもマルキシズムに復歸するものである。而してその全活動に於てブルジョア日和見主義的變節を去つてマルクスの○○的教義を再現するものである』と。所謂『復歸共產主義』は蓋し此處から始まるのである。而して今日全世界で『共產黨』『共產主義者』、『共產主義』等と云ふのはこの意味に於ての『共產主義』なのである。日本に於ても又然りである。

實に以上の如く、最近『共產主義』と云ふのは（一）の經濟學的な區別に於ての『共產主義』ではなくして（二）の社會主義史的それもマルキシズム史的の區別に於ての『共產主義』である。卽ち『復歸共產主義』の意味に於ての『共產主義』である。

この間の關係に就ては獨逸のマルキシストであるボルハルトと云ふ人は次の如く言つてゐる。『一九一八年に於ける獨逸の十一月革命以來、社會主義及び共產主義なる二つの概念の間に、一の眞面な差別が造られしは尤もである。何故と云ふに、獨逸の社會民主々義は、世界戰爭や革命を通じての彼等の態度に依り、社會主義なる名稱の上に拭ひ去ることの出來ない恥辱を負はしめたからである。たから、社會主義に對して、群衆を誘惑するための看板としてよりも、又群衆を利用するための踏臺としてよりも、より以上の意義を認めて居た總ての人々には、卽ち社會民主々義の昔もの努力と理想とに眞面目に共鳴した所の總ての人々は社會主義なる名稱を拋棄せねばならなかつた。斯くて彼等は昔の名譽ある共產主義者なる名稱に立ち歸つた。彼等が信奉する所のものは、既にマルクス及びエンゲルスが一八四七年に共產主義と名づけそして其後二三十年間、主として社會主義と呼ばれて居たものに外ならない。實の所、此等二つの言葉の意義は全然同一である。只獨逸の社會民主々義者が此の事實に要斬りつゝも、而も尙その名稱を維持して居つた故、今や彼等は、自分達以外の人々卽ち正に現代の共產主義者その者が、社會主義と何か掛離れた一つの新な教義を考へ出したかの如くにして了つたのだ』と。

以下私はこの『共產主義』を便宜上『復歸共產主義』と呼ぶ。

（三）「復歸共產主義」の中心思想

『復歸共產主義』はこれを『ボルシエビズム』と云つても又『レーニンズム』と云つても宜い。

所で然らば、この『復歸共產主義』の決定的中心思想卽ち『復歸共產主義』たる所以は、何處にあるか。『復歸共產主義』の決定的中心思想は無產階級が所謂『政治○○（政權奪取）』をなすに必ず『△△』で行かなければならない、とする所にある。

およそ『マルキシズム』の所謂『社會○○（社會革命）』なるものは、『政治○○』に初まつて、『經濟○○』に終るものであるがその『政治○○』卽ち『政權奪取』の方法には、大體『△△』に依る方法と『平和』に依る方法卽ち平和な手段と平和でない手段とがある。所で『マルキシズム』から行けば、『復歸共產主義』に依れば、必ずその『△△』に依らなければならないと云ふのである。レーニンの有名な著『國家と革命』は實にこれを力說論證したものである。私は此處にそれを引證したいのであるが、現實の事情の下に於てはそれが許されないから、この點に就てはこれだけにして置く。

兎に角斯樣に『復歸共產主義』の決定的中心思想は、この『政治○○』をなすに必ず『△△』で行かなければならないとする所にあるのである。たからして今日『私は共產主義者だ』と云ふ時は、嚴密には『△△』で行く主義者を意味して居るものでなければならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（四）復歸共產主義とマルキシズム

然らば「復歸共產主義」と「マルキシズム」との關係は如何なるものであるか。レーニンに依るとこの「復歸共產主義」こそは「マルキシズム」であつて「議會」を通じて「政府〇〇」を遂せんとするのは「歪められたるマルキシズム」である。果して然るか。

日本がそのいづれの方法で行くべきかは自ら別問題である。此處に於ける問題は、レーニンのかゝる「マルキシズム」解釋が「マルキシズム」に就て正しいか否かにある。

私は、レーニンの斯かる「マルキシズム」解釋は正しくないと思ふ。私に依れば「マルキシズム」からする時は、そのいづれによつても差支ないものである。決してどちらが「歪められたるマルキシズム」たると云ふべきものではなくそのいづれによるべきかは「その國の事情」によるものである。この事に就ては、河上肇博士の如きも主張して居る所である。左にこの點を論證すべき、マルクスの言及びエンゲルスの言各一つ宛を紹介する。

マルクスは一八七二年にオランダのアムステルダムでなした演說中に次の如く言つてゐる「プロレタリアは政權を掌握しなければならない。然し吾々は、この目的を達するための徑路が到る所同一であると主張するものではない。我々は、種々なる地方の制度や、慣習や、慣例やを顧慮しなければならないと云ふことを知つて居る。而して我々は、米國や英國の如き國々では――もし私が此のオランダの國における制度をもつとよく知つて居たならば、私は多分それにオランダを附け加へるであらう――勞働者が平和的の經路で彼等の目的を達し得ると云ふことを、否認するものではない。然し一切の國々で皆さうだと云ふ譯ではない」

エンゲルスも又その晩年、マルクスの死後マルクス著「フランスに於ける階級鬪爭」の序文に於て次の如く言つて居る「當時（一八四八年）の事情の下にあつては、プロレタリアとブルジョアとの間に大決戰が破裂するだらうと云ふこと。それは長い且變化の多い一個の革命期に亘つて決戰されなければならぬと云ふこと、然しそれは無產階級の窮極の勝利を以て局を結ぶの外はないと云ふことに就て何等の疑惑を持たなかつた。」「然し、歷史は我々が矢張り間違つて居たことを證明し、當時の我々の見解が一個の幻想であつたことを暴露した。歷史は尙遠に進行した。それは只に當時の我々の誤謬を粉碎したのみならず、又無產階級が其の下に於て鬪ふべき諸條件を全く變形して了つた。一八四八年代の鬪爭方法は今日では有らゆる關係に於て陳腐に歸した。そしてそれは、この機會に於てもつと詳しく討究される値打のある點である」「かくて鬪爭の條件が本質的に變つて來た。舊式の叛逆、防寨による市街戰は、明かに陳腐に歸した」「襲擊の時代、無意識なる大衆の尖頭に立てる僅なる少數者によつて果さるべき〇〇の時代は既に過ぎ去つた。過去五十年の歷史が其を我々に敎へた」「世界史のアイロニーは一切を顚倒した。我々は不法的の手段と顚覆とによるよりも、合法的手段によつてよりよく成長する」（因に、エンゲルスは、斯く云つた二三十年後に、ロシアボルシエビキは不法的手段で政權を獲得した）

兎に角、斯樣にマルクスもエンゲルスも「議會」に依る方法を決して否定して居ない。マルキシズムに依る時は、そのどちらに依るも差支ないものであつて、それは「その國の事情」に依つて決定されべきものである隨つて必ず「△△」に依らなければならぬとするレーニンの「マルキシズム」解釋は明かに間違ひである。私のこの言葉は、レーニンの言ふことなら何でも擔ぐべきであると心得て居る、そしてさうすることを以て何か徹底した社會主義者でもあるかの如く心得て居る人々を喜ばしめないであらう。「小兒病社會主義者」「術策社會主義者」はその喉笛の所まで既に「日和見主義」「骨拔」「俗化」の言葉が來てゐるであらう。けれ共、私は、レーニンのこの「マルキシズム」解釋は誤謬であつても、日本の「プロレタリア政權獲得」は「△△」で行つて差支ないものであることを知つて居る。日本のそれを決定するものは、レーニンではなくて日本の「社會事實」であることを知つて居る。そして又、眞にいざこざと云ふ時に一番先に逃げ出す者は多分この「小兒病社會主義者」「術策社會主義者」であらうことも知つて居る。

レーニンは前掲書第一章第四節に於て、「マルキシズム」から言つてプロレタリアの「政治〇〇」即ち「政權獲得」は必ず「△△」即ち「非合法的手段」で行かなければならないことを論證して居るが、その論證は成り立たない樣に思ふ。この事に關しては、私は雜誌「進」正月號に、稍詳しきその檢討を載せて居る。此處には單に、「マルキシズム」から云へば「合法的手段」に依るも「非合法的手段」に依るも差支へないものであつて、それは「其の國の事情に依るべきものである」ことを論ずるに止めて置く。

（五）マルキシズムに復歸せよ

嘗て五六年前、日本の社會主義運動は未だ無政府主義全盛であつた頃には、「無政府主義者に非ずんば社會主義者に非ず」の觀があつた。「無政府主義」と云へば、何か普通の「社會主義」よりは遙に偉い徹底したものでもあるかの如く考へられたものである。「無政府主義」を自稱する者は、甲賀町の坂を上り下りする足の運びにも、たゞならぬ恐怖を痛感したものである。そしてかうした嗤ふべき兒戲的觀念よりして如何に無要な鬪爭と犧牲とが釀されたであらう。かゝる時にあつては、「正道」は往々にして侮蔑と嘲笑とを以て浴びせられる。

私は「共產主義」にからまる或空想的な、偶像崇拜的な觀念が、今又幾分その無要の鬪爭を助勢して居るものではないかを思ふ。既に見るが如く、所謂「復歸共產主義」と之に對して區別された時の「社會主義」との區別點は、唯その「政權獲得」の方法に於て相違するのであるが、その「方法」は決して天降り的に決定されべきものでもなく、既に決定されて居るものでもない。それは主として之より釀されて行く「社會事情」殊に「支配階級の態度」に依つて決定されて行くべきものである。「地震、火事、憲兵巡査」式に出れば「地震憲兵、火事巡査」式に行くまでのことである。

之を要するに、我々はこの點からしては、本質的に相對立して爭ふべき正當な理由を有しない。社會主義派の陣營はこの點からしては、その內訌を釀さなければならない何等正當理由を有しない。されば先づ「マルキシズム」に復歸せよ。それはお互に同志を宜しく諒解する所以である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

力は組織より生る

——「進め」記者への一提案——

吉田一

一

現社會制度の不法を意識しその不法の下に苦惱しつゝある無產階級。この階級をして將來の社會に玉座を置いてる爲めの、目的を持つ人に——資本家階級、特權階級即ち一言にして言へば、支配階級の凡ゆる巧妙な、赤防的戰術に對抗し、革命戰術を遂行し、『自由玉座』に獻身的犧牲を拂ふことを辭せない人に——斯うした人々は今日云ふ所の勞働運動者及社會運動者である事は、嘗て贅言を要しないことであらう。

二

されば此の光榮ある社會運動を私視するものは、その誰たるを問はず、社會運動の大なる毒草である。獅子身中の蟲である。社會運動の內部からの破壞者である。此等のものを一掃するは社會運動に從ふ者の一個の義務であらねばならない。それは恰も支配階級に對する場合と同一であらねばならぬと思ふ。僕等はこの意味に於いて先頃討閥運動を起したわけである。

然るにこの投石は端なくも陳腐化せる社會運動者の間に大きな渦を卷き起した。總ゆる方面から討閥運動に就いて、騷然たる批評を受けた。で自分は新に討閥運動の眞價を今一考する必要を切に感じた。

三

抑も討閥運動なるものは、誰れあつて依賴によつたものでもなければ、依賴したものでもない。

『未來と青年社』同人も同じくその必要に迫はれ、又斯う言ふ僕自身も如實にその必要を感じた。そして此等三者の必要は、偶然にも、同一問題に對して同樣な立場及主張を供にして、社會に公にしたまでゝある。

たが、この討閥運動は今始まつたのではない。日本社會運動の過去には立派にその歷史を持つてゐることである。

既に討閥問題は『民衆運動』第五號にその理由を克明に述べたのである。ために重複の嫌ひはあるが發賣禁止のために多數讀者の手に渡ることを得なかつた故、再び『進め』紙上に論ずる樣なわけである。

四

然して、如何なる種類の運動でもその目的を持つ人々が結合すれば其處に一個の閥の發生するは當然の儀である。コンミンストはコンミニズムのために、アナーキストはその無政府社會の實現のために、又國家主義者は國家主義の天地で各々其目的のために團結する。而してこの閥——一つの運動組織と見ての——團結は絶對に目的に對して必要なる手段である。

五

されば何故に、俺達はこの絶對必要な閥——一つの運動組織と見ての——團結を討つ運動を起したか。僕等の當面の主張に抵觸しやしないか。これは明らかに困難なる一課題である。たが此の課題は次のやうな答案になつて、氷解しやしないだらうか、(一言殘して置きたいことがある。討閥とは僕等の運動に痛切に符合する言葉でないやうに思ふ。けれどもその內容がその意味を充分に了解せしめよう)閥、團結の力が外部に發展した時、個人のそれより強大なことの力は、必ずその目的に向つて好き効果を齎すは明白なことであらう。けれども——老獪、陰險人の眼を瞞らます巧者が、その力を內部の自己勢力發展のために利用し、統一的團結を分裂せしめたとしたら、この強大な力が善用から惡用された證左でなければならない。社會運動の力を私利私慾のために使用したとすれば、それは明かに惡用したのだ。そして惡用した者は社會運動の公敵として、彼等を排むることは必要でなければならない。俺達の討閥運動の眞意義は正しく玆にあるのである。

六

論說は明かになつた。閥——一つの運動組織と見ての——閥を造れ組織を製れ。團結せよ!けれども社會運動家はその個人に歸依するのではない。主義に歸依するのである。從つて、閥は親分子分の關係のためではない。閥の中に於いてお互は平等なる友であり、兄弟である。もし、命令があれば、神聖な主義のためのものでなくてはならぬ。個人の基盤から割出された考へは、一切拒否。すべきである。

俺達は同志を固める。方法手段を構じなければならない。徒らに彼等の老獪、罪跡を指適して喜び浮れてゐるものでない。

七

却說、俺はこれから少しく尤も必要とする事を、此の紙面に提案して、この稿を了らう。讀者諸君も既に知らるゝ通り、此の戰鬪雜誌『進め』は社會主義運動か嘗て有した、如何なる雜誌よりもその普遍的に行ひ渡れる點に於て、その無產階級啓蒙の役立ちし點に於いて、優に第一位を占める格にゐる。三萬以上の讀者を持つた社會主義雜誌が何處にあつただらうか。

八

如何なる雜誌もそうであるが、特に金穴のさほしな社會主義雜誌に於いては、讀者の力に待つ所、多大であるたが讀者諸君は單に氣昇天を衝く雜誌の氣焔に、氣を休めて、生活の苦勞から逃れたかのやうに思ふは誤りである。諸君は此の雜誌から受けた思想、感情を諸君の生活の上に、行動に現し給へ。すれば、諸君は偉大なるものを得よう。併し、諸君よ。前にも述べたやうに、諸君の個々の力は微弱だ。その力ちあ、この偉大な強固な組織力を持つた現代社會組織を何うすることも出來ようがない。たから、力の團結、組織化は皆知れる所であらう。そして、無產階級のこの團結、組織が諸君を雜誌の購讀から自由な社會に運ぶ

九

そこで俺は發展された『進め』の同人が結合して、一個の思想團體及、運動團體として各地の連絡をはかつて、組織的な團體行動を開始することを欲する。『進め』といふ文字は共產主義社會へ驀進に進め!と云ふ簡略された言葉に過ぎない。されば、『進め』に紙

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふものは、共通の思想のために集まる團體である。一個人の言葉によつて『進め』を左右さるべきものではない。

十

然らば、その內容如何。先づ各地の團體は、その最寄の若しくは地方の大會を開く單位であつて、そして此の地方大會は三月に一度位の程度で大會を開き、大會の職能は各地方の情勢に應じてその地方の宣傳、運動の能度を決定し、その結果を報告して、次の大會までの豫算、人員等を選定し決算する事。其代表者には相應の生活費を給與し、責任を與へ背任の場合は、相當の罰則を設け、彼に責任を問ふ事。然して、此の地方大會は、春秋に開かるべき年二回の大會において、その一切の經過を報告し、尚地方大會と同じで各地方の代表者より全國大會委員を選衡して全國的行動の運動方法を構じ、全國の豫算、凡ての組織的行動に必要な事項を議定す。俺が此處に提案した事項はホンの僅少の事に過ぎない。尚詳細は大會を俟つて始めて決定さるべきものであらう。

十一

此の運動を促進せしめるために、特に本社に對して申したい。本社はいまゝでの運動方針より、全國の『進め』の讀者、又は支局同人に對して『進め』特有のマークを製作してそれをば渡して會員章としたい。そしてそれによつて大會の豫備行動をなす事を要求する。

十二

俺は俺の此の提案が具體化された曉は、資本家階級に向つてのまた社會運動上のゴミ共に對して一大驚異なるは疑ひないことであると思ふ。と同時に無名病者の向上發展を促す助けにもならう。局部的の『討閥』を叫ぶよりも、寧ろ『進め』獨特の運動組織を以て左手には社會運動の攪亂者を撲滅すると共に右手には〇〇の旗印を押し立て社會運動の本舞臺に乗り出す事が討閥、〇〇兩運動から見て最も合法的有効なる戰術ではあるまいか俺はそれを切に望んでゐる。（終り）

無產青年の全國的大同團結を作れ

岩村町　石川生

我々地方無產青年が研究に講演に又は宣傳に其の他種々の催しをしようと云ふ現實に當面した時第一に感ずる困難は適當なる講師の選定であるが、幸にして適當なる講師の選定に成功したとしても費用とか時日に困難に當面し折角の計畫も計畫倒れとなる事が多い、よしそれが計畫通りに遂行されたとしても其の間實に多大の費用と努力が浪費されてをるのである故に各地方に思想的青年團が存在してゐても組織と統一がないため唯多くの犠牲と多くのエネルギーの浪費あるのみで甚だ少ない收獲を獲得する事しか出來得ないのである故に未來に活働を持つ青年にして即ち無產階級解放運動の戰列に參加すべき青年にして未だ階級的に目覺めざる青年をして起たしむべく教育と訓練を容易にし現在農の大部分を占むる農村無產青年をしてアンチミリタリズムの思想をしつかりと研明把握せしめ軍隊の崩壞をしてより早からしめ又彼等支配階級が在郷軍人青年團其の他色々の團體を組織し暗愚と盲勢と擁護の光榮を強要し彼等支配階級が防禦を忘れない時に我々無產青年も全國的大同團結を作り（組織は本部を都會に設置し有給本部員をおき本部の經費其の他は會員負擔による）一定の宣言し綱領と主張の下に團結と組織を強固にし地方無產青年をして運動を容易ならしめ運動を衆化する事によりて始めて根強い礎石の下にほんとうの運動が始まるのだ。大都市の闘よりも將た又農村よりこの叫聲が燎原の火の如く叫ばれん事を切に望む。

日本無產青年同盟

岸和田支局を中心に創立さる

漸く理論の時代から實際に移つて來た我國の無產青年運動は、今や各地に於ける勇敢なる同志に依つて文字通り實際化されて來た。

分けても社各地の支局が此の無產階級解放戰上に最も重大なる役割を持てる兩の青年運動の實際化に全力を掲げて活躍しつゝある事は、本部として、否我無產青年として實に力強い。

今又新しく生聲を掲げた、岸和田市支局が中心となつて日本無產青年同盟の創立された事を滿天下の同志諸兄にお知らせする。

去る十二月廿二日岸和田市公會堂に於いて創立大會を開催され、左の宣言を發表した。

日本無產青年同盟宣言

今や全國に於て無產青年運動の黎明の曙光は輝き始めたあたかも燎原の火の如く俺達無產青年解放の曉鐘は亂打されたり今だ醒ざる無產青年をして長夢を破り玆に斷然として日本無產青年同盟を組織す

從來無產青年は自由平等な愛の精神を濫印として特權階級及軍閥主義に反逆し資本主義文明の殘忍なる鐵鎖を斷ち生活苦に惱める俺達無產者を解放し團結の威力に以て頑冥なる資本主義社會の改造を期し言論出版實行運動を以て社會主義國家の建設を高唱し無產階級獨裁の社會を建設せる事を宣言す。

本部を

大阪府下泉南郡岸和田市下ノ町（四三一番地）に置き常務に古井鹿二郎君を選出した。

無產織工の叫び

倉本　晃南

岡山縣旭東郡二郡に於ける瓦製造業者を以て組合させる瓦同業組合がある、右二郡に瓦製造業者が三十軒で玆に從業せる職工が約百名內外、有產階級職工は、比較的僅少で無產職工が多數である、此の職工等は毎日早朝から晩に至る迄勞働し他の工場の職工とは異なり晴雨寒暖に依つて製造能率を異にするものである。先づ一ケ年を通じて言へば、日の永い暖期中約半ケ年位が、能率の上がるときである、殘餘の半ケ年は寒さや風及び時候不順での僅の賃金を得るに過ぎぬ、實に他の諸職工に比して、瓦職工は悲慘な有樣である。此の悲慘なる職工を使用する、工場主等即ち瓦同業組合では過般組合會を開き職工賃金の値下を斷行したのである。現在の如き米價及び諸物價に至る迄暴騰するに反し賃金値下は不當であるとて職工中には、不平を唱へる者もありしが如何さもならず、泣き寢入り、殊に是れから短日時となり且つは寒さを向かへ仕事の能率上らず收入は少なかるは、此の狀態の職工等に反し工場主は、何處を風が吹くかとおかまいなく、瓦工が他の職工に比較して、賃金の低給なるに憤慨し且つは目覺めてか、昨今職工連中の心ある者は職工組合を組織し堅實なる態度を以て工場主に對抗し公平なる程度に値上せんと寄々協議中なりしと聞く、若し實現の曉は頗る興味ある問題とならん無產職工の叫び共まゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

方向轉換論に就て

――人間は環境の動物である――

橋本多波

人間は環境の子である。生存競爭の激烈な都會に住居する人は世故に甚だ狡猾であり田園に鍬打つ野人は其の性情甚だ淳朴である。山なす怒濤に一葉の舟を操る海濱の漁師は其の體軀甚だ頑強であり熱鬧の巷に享樂を追ふ都會の人には所謂蒲柳の質が多い實に人間は環境に對する柔順な下僕であり、又運命に身を委す賣笑婦である。「運命か？運命吾是を作る」と豪語した英雄も有つたがそれは英雄にして始めて可能的な事であらう。他愛もなく運命の捕虜となり環境の忠實な盲從者となるのが人間の先天的弱點である。過去數十年無產階級が資本家階級の暴虐なる搾取に對し何等反旗を飜さなかつたのは資本主義が無產階級の生存に甚だしき脅威を與へる程に發達して居なかつたばかりでなく又無產階級が現在の悲慘な生活を不可抗的な運命なりと肯定した結果に外ならぬ。實に悲しむべく呪咀すべきは運命是認環境順應の弱點否無智である。マルクスは『物質的の生產方法は一般に社會的の政治的の及び精神的の生活過程を條件ずける』と痛烈に無產階級の誡まれる運命觀を喝破してゐる。實に過去數十年、ブルジョア哲學は無產階級の現在の不遇が現實の地底より滾々と溢れ來るものである事を糊塗し隱蔽し其の憎むべき敵化を吾々の骨に迄透徹させた。近代の進化論者は頻りに叫ぶ『社會進化の必然的結果は無產階級を永遠の奴隷にはして置かぬ』と、今や爛熟の域に達したる資本主義が將に崩壞の宿命に遭遇せんとして無產階級の生存が頻りに脅威迫害の砲彈に見舞はれんとする時無產大衆は漸くにして過去幾十星霜彼等が不可避のものなりとして諦觀し來れる運動觀を朧氣ながらも懷疑を抱くに至つた。然しながら彼等は未だ彼等を永遠の奴隷たらしめんとする誤れる運動觀が資本主義的生產方法の胎内に萌芽して居る事を明白に意識するには至らない。同志は叫ぶ『見よ？勞働條件の改善維持と云ふ樣な狹隘な天地を彷徨して居た曩日の勞働運動が近來に至り著しく社會主義的運動の傾向を帶有して來たではないか？是は無產階級が過去の誤れる運動觀より脫却した事を明白に語るものである』と然し此の觀察は餘りに輕薄であり過信である。勿論私は勞働運動の隔世的發展を是認する。然し勞働運動が社會主義化したりとの毫も價値なき安價な觀察には斷乎として反對する。或種吾々勞働者間のある者は、紅蓮の如き舌端より資本主義の撤廢を熱叫する。然しそれは勞働運動の社會主義化ではなくて一部少數の極一部先驅者の思想的自覺に過ぎぬ。私は每日多數の勞働者に接觸し彼等の思想的趨勢に對し緻密の觀察を試みるに悲しい哉彼等の大半は生存の脅威に對し吾々が想像する程の不安も悲憤も感じて居ない。勿論多數の中には生存の脅威に限りなき焦燥を感じて居る者も認め得るが、然し未だ尙彼等多數は依然として誤れる運動肯定の雰圍氣に躍動し社會主義の何たるかを理解して居ないばかりか、寧ろ憎惡敵對の觀念さへ抱いて居る。勞働運動の社會主義化を眞實に信ずる者は、無產階級の思想的發達を過信する愚昧の徒でなくば、現實に目を蔽ふて自己陶醉に耽溺せんと欲する者である。勞働者の中の極一部少數の人々が擧ぐる痛烈骨を刺す資本主義撤廢の叫びより推測せる安價な觀察を以て大衆の社會主義化を過信する事は、現實に立脚すべき勞働運動に實に重大な危險と齟齬とを與ふる者である誤れる運動肯定の迷夢を破り無產階級解放運動の最後の目標を明白に意識する前衞が大衆の渦の中に踵を戾し、大衆の當面の要求と常に同一の步調を保持しつ、漸次に大衆をして透徹せる階級意識に誘導せんとする方向轉換は實に聰明な戰術である。然し此のタクチクには看過し得ざる重大な危險性が伴ふ。それは既に或論者も指摘するが如く、解放運動の最後の目標を明白に意識して、大衆の陣營に躍入つた前衞が何時の間にやら愚鈍な大衆意識の混沌たる渦の中に惑溺する事である。人間は環境の子である。是は眞に悲しむべき人間の弱點であつて何人も陷り易き缺點である。如何に花々しい〇〇的分子であつても、自己の環境に對し絕へず警戒する處無くんば知らず知らず昨日迄の爛々燃ゆるが如き覇氣から遠ざかり、次第〳〵に鈍い大衆意識に毒され、斯くて遂には解放運動を遂行するために必然的に生ずる、種々の苦難迫害に對する忍耐力まで失つて、現在に安住せんとする腐敗墮落の深淵に沈淪する。又或者は勃として抑壓し得ざる階級意識のため、限定されたる方向轉換の境界線を無視して高踏的運動に走り、遂に大衆と隔絕するに至る。然し是は案じるほど多くはない。方向轉換は實に地味な運動であつて剛健不撓の精神を絕對に必要とする。從つて徒らに自己陶醉に溺れんとする者又は賣名的運動家は必ずや上述の如き墮落の深淵より脫却し得ざる醜態を演ずるであらう。然しながら私の杞憂する方向轉換の最大の危險は、前衞分子が大衆意識と同化する事ではなくて他の方面に存在する。それは無產階級の前衞分子が透徹せる階級意識をもつて大衆の本陣に立ち戾り、大衆の當面の利害と常に密接不離の關係を保持しつゝ大衆を現在より以上の地位境遇に誘導するならば必ずや大衆は其の地位境遇に執着してより以上の天國に對しては甚だ冷淡な態度を持續せんとする事である。例へば大衆が二圓の賃銀を要求して居る際、前衞分子の活動により其の要求が貫徹したる場合大衆は二圓の現在に充分滿腹しより以上の階級意識の必要に甚だ消極的となり、其の結果解放運動の最後の目標に對する意識を麻痺せしめる事になる。是は現在に安住せんとする人間の先天的の保守的消極的の弱點であつて、方向轉換に伴ふ考慮すべき重要な點であらねばならぬ。現狀維持の弱點をもつ大衆をして彼等が要求する當面の物質的利益を與へつゝ漸次に一步前進せしめる事は實に吾々の至難とする處である。然しながら、吾々不撓不屈の精神を以て、常に現在に安住し固着せんとする大衆の誤れる運動肯定環境順應の迷夢を打破し、灼々たる階級意識の促進に努め、一日も速かに無產階級解放運動の最後の目標を意識せしめねばならぬ。同時に吾々は大衆の意識と融和せぬ樣常に深甚なる警戒を拂ふべきである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本流を漕げ

在京城 長沼生

パーリメンタリズムと日本の社會運動の連鎖に就て先鞭を付けた、山川均氏は氏の著「無產階級の政治運動」に於て更に詳細に氏の抱負を述べ、パーリメンタリズムの功利的價值を論じ、併せて其の危險性を論じて居る。內地を離れて比較的刺戟の少い朝鮮にある僕としては氏をして此の著をなさしめたのは日本に於ける、運動の雰圍氣であるか、又は氏が秀でた豫見者であるかを知り得ない。併し氏の著と前後して階級運動の方法論に於て似通つた議論が提唱されて來て今や其の頂點にあるかの感さへあるのは事實である。例へば我が愛讀する「進め」誌上に於てさへも。斯くの如きであれば爾余のフエビアン同人以下の桃色團體に到つてはチヤンス到れりと計りで寧ろ皷き過ぎざるやの感さへ伺いて來る始末である。即ち該論が日本の階級運動者に異常なるシヨックを與へ、漸ては方法上に最重要なる位置を占めるなきやを思はしめるに到つた。危機は正に孕まれんとして居る。

第一に少くとも我が「進め」社同人中には議會主義者は一人たりとも無く所謂「利用主義者たることを信ずるものであるが動もすれば口を開けば無產政黨の將來を說きつゝ其の準備を語り、最後に山川氏流に危險性の覺悟を寧ろ申譯とも聞える程度に復させつゝある

僕は利用主義賛成論者である併し議會主義の內容と利用主義の內容に就て檢討すれば夫れこそ先覺者が感ずる危險の程度以上夫れを感じ從つて利用主義の價值を大なるものと考へ得られない一人である簡單に結論すれば階級運動上の純然たる補助力しか無いものと思つて居る者である。前に返つて論ずれば人には除り大きく期待し、其結果案外詰らぬ濁酒に陶醉し口拭に危險性を誘發さして居るのではあるまいか？

本流の響きが一寸も聞けぬのが大きな心配の種だ。

第二に無產階級黨の樹立に就て僕は第一に感じた事を一解釋す。直情徑行的な農村青年に對して洗禮されたる古武者も同危險とする濁酒の香を嗅むるが如き。夫れとも眞正面より議會主義を勸め其の上糸を操らんとする考であらうかマルキシスとして最も聰明な科學的戰術を本流に施すことが全力の中心であつて利用主義は飽迄片手間の仕事ではなからうか

一九二四、一二、一六在京城長沼生

自由人と革命人

田中和雄

僕はこう云う譯で、ものを言ふのは始めてではあり勞働者だから、たいした話しは出來ません。

此れは題が大げさ過ぎます、內容は至つて貧弱です。

僕の話す事が皆さんの尊い時間を少しでも潰すにはあまり無價値なものじやないかと思はないでもありません、しかし僕は學者に話しかけて居るのじやなく、自分と同じ勞働者や廣く無產者に話す以上きれいな論文に成つて居なくともいひと思ひます。ちようど僕の話す氣持は一度溝に落ちた經驗のある者が同じ道を步く仲間に「おい兄弟そこに溝があるから氣を付けろよ」と云ふ氣持でです。僕より其の經驗の深い人や學者は面白くないでせう、しかし彌次つてはならない、其れは、僕に對してではなく溝に落ちた經驗の無い者に對してた。さて人によつて主義に對する形に大體自由人と革命人の二つの形が有ると思ひます。自由人は未來の社會に住むには適當ですが現在の社會を改造するには弱過ぎます。此の形の人は學者や文藝家に多いと思ひます、現在の社會に住んで居る以上、多分の虛無主義的色彩の有る事はまぬがれませんが、自由人は現代では泣く事しか出來ません。

階級戰の砲彈を運ぶ力は有りません。現代で正義を要求している、言ひ換れば自覺した無產者の要求して居るのは泣き男や泣き女ではない。砲彈運びた。革命人た。

革命人とは時代の要求と云ふ無形の鑄形で鑄られた鋼鐵の樣に熱い眞赤な人です。資本主義と云ふ猛獸を叩き殺す唯一の偉大なヘンマーです。其のヘンマーを振上げると、少し疲れると云ふ事を矛盾た矛盾たと騷ぐのがオケラ（人道主義者です。ニケラの言ふ通りまあ矛盾として置いてもいゝ、しかし其の矛盾こそ、オケラの成し得なかつた事を成しとげる原素です。此れより偉大な矛盾（眞理）が他に有りませうか。

しかし僞革命人に注意しなければなりません「小人閑居して不善を成す」たしかにそうです、學者や雜誌を出して居る者で革命を職業して居る者が有ります。其れは神聖な自由を、放從と云ふ汚物で、けがす者です。其れはちようど無產者と云ふ足に、理想社會と云ふ山に登る爲めの、手段と云ふ靴をはかせる時、靴屋が自分勝手な寸方で造つた靴が、はいらないからと言つて、足をけづる（足を攻擊する）程馬鹿氣て居ます。

頭の中での改造なら（自分勝手な寸法で造つた靴なら）泣き男の方がよつぽど美術的に造る。無產者の足の力と、靴屋の技術が相まつて始めて丈夫なぴつたりと合つた靴（仕度）か出來て、始めて理想の山に登る事が出來るのです。無產者は力を造らなければならない、其れは團結する事より他に絕對にありませんそこで足あつての靴です力を造るには正しい運動をしなければならぬ、正しい、きりつ（組織）がなければ駄目です。

第一が團結する事た、吾々の力を造る事た、今の日本の廿萬たらずの組織勞働者で何が出來よう。下らない老婆心はやめろ、柿は秋に成れば自然に赤く成るにきまつて居る（日本は伊太利の樣に熱情的でで反動勢力が大きいから、英國式に近い樣に見ゑて、ちようどいゝなぜなら日本人は英國人よりも伊太利人に近い熱情的な國民性たから、英國式に陷落はしない、それに資本主義の餘命は英國程、餘有が無く目の前にせまつて居る、伊太利の失敗をくり返さない爲めには、反動的の一般大衆を敎育し團結する爲には、耐忍ぶ事が社會を救ふ事た、それも日本は少しの間た。）

「萬國の勞働者團結せよ」と云ふ言葉が宙に浮いて居ては佛と同じたもつと、もつと、日本の土臺から築いて行かなければならない勞働者は勞働組合へ、小作人は農民組合へ、無產階級の大きな團結が出來て始めて、そこから多數の眞の革人が生れるのたと思ひます。

郡築村小作争議

熊本縣一讀者

一昨年十一月廿六日以來紛擾に紛擾が重ねて來た、熊本縣八代郡郡築村小作争議は、何時まで時日を經過しても其の解決點を見出さず、小作人組合に於ても益々強硬な態度に出、左の條件を地主たる公益組合に突きつけた。

一、大正十一年度は小作米五割減（十一年納附済みの小作料半額だけであとを追徴せぬ事）

二、大正十二年以降五ヶ年間無料小作

三、前記五ヶ年小作土地七割の部分權を與ふる事

之れに對し公益組合は之の條件を入れず、地主側なる公益組合では最後の手段として、郡築農民組合幹部成松吉次外十三名の小作地、四十四町八反歩の立入禁止の假處分を其の筋に申請中の所、九日午後五時熊本地方裁判所八代支部にて左の如き判決があつた。

主　文

被申請人の別紙目錄表示の土地に對する占有を解き申請人が委任したる執達吏に之が保管を命ず執達吏は現在の耕作物に限り土地の現狀を變更せざる條件を作さして其の手入及收穫を為すことを被申請人に許す事を得此の場合に執達吏は土地が執達吏の保管にかゝる事を公示する為適當の方法を執り前期收穫に就ては他日の收穫期に際し一定の期間を定めて之れが許すべし被申請人は收穫所該果實の占有を他に移轉する能はず申請費用は被申請人の負擔とす

公益組合にては愈々四月十二日を強制執行をなすこととなり、八代區裁判所より執達吏及萬一を警戒するため、八代署より田島警部補巡査數名を引率して土地立入り禁止を執行する管であつた所、形勢不穩と見たのか十四日に延期された。

當日は恰も農民デーとて、小作人は自動車で各町村を宣傳し又小作人の家族に至るまで業を休み、同村船神社に集合して式を催し、後假踊り等の餘興をなし祝盃をあげて居た所、右の報が傳はつたので、直に路法寺に引揚げ、子供を抱いた婦人や青年處女等の悲痛なる演説があり、十四名の幹部と共に組合員は總て犠牲になることを申し合せ、蓆旗を押立てゝ大いに示威運動を試みた。

形勢頗る不穩と見て取つたのか熊本縣警察部よりは巡査應援隊を特派し、熊本憲兵隊本部でも、村山町長は十二日早朝縣廳に白井高等課長を訪問し、取締上に關し打合せをした。

地主側では最後の手段として農民組合幹部十四名の小作地、四十四丁八反歩の土地立入禁止の假處分は、十四日午前九時愈々斷行した。地主側は早朝より立入禁止の制札を車三臺に滿載して、迫郡長郡書記數名及び、田島警部補以下數十名の巡査は執達吏と共に乗り込み、二手に分れて差押へに着手せんとした所、數百名の小作人の一團と出會ひ押問答を始めた。此の日八代署は署長以下總出にて、縣警察部よりは岡田保安課長、井上高等課長は午後○時三十分熊本驛發の列車にて八代に向ひ、島田警部以下十數名は自働車二臺にて、正午頃現地に致着と相前後して、宇の原、松橋の兩署員之れに熊本憲兵隊よりも數名來援ありて、さながら戒嚴令施行狀態である。

土地立入禁止執行當日小作人側の婦人娘の一團は、股引脚絆で午前八時三十分白島に集合して、神社參拜をして隊伍を組みて農民組合郡築支部の大旗を先頭に數流の桃色の旗（赤色は其筋より禁止）又手に／＼小旗を打振り春風に飜し、農民歌を高唱して八代町八幡神社に參拜、それより宮地村妙見神社に詣で引返して、八代町の八代宮に來り込んで闘勝の祈りをした。之の中に杉谷ツモ氏其他の女連が、涙を振つて悲痛な聲を張り上げて祈禱したのには、百餘名の者水を打てるが如く悲痛の極みであつた。

十四日の夜村民數百名八代町に押し掛けたので、誰れ云ふとなく公益組合の幹部の宅を襲撃すると云ふ噂が傳はり、警官隊の警戒が、憲兵隊の來援に警戒は頗る嚴重を極めたが、何事も起らずして解散歸村した。

小作人側の婦人の一團が、神社參拜をして行くや郡築にては、大人三百餘名集合して、地主に對して土地は返すから、開墾した費用を與れと熱狂的に對抗した。之がため警察側にては形勢險惡と見たのか、警官を益々增員した。

元來郡築村は公益組合に於て、百萬圓にて築堤工事をしたので、小作人は之がため荒地を開墾したものであつて、當時開墾報酬として五ヶ年間無料小作の契約あるに拘はらず當時より小作米を徵收する等甚だ不都合であるので、地主側の訴訟に對して飽迄所訴することに決議した。

◎「土地差押へに對して小作人連が、郡長や執達吏に對する小せり合は、數回に亘つて行はれたが其の内、人夫四人に對して吾々「お前達は日本人であるか、吾等の苦痛を知らないか」と口々に浴びせかけたので、人夫達は立札や車等を放去りにして逃げ出し、郡書記や正服の警官等が荷車を挽く等の奇現象を呈した

之の小作地立入禁止處分に對し小作人側に於ては、吾々が之の處分に屈服したならば、社會の物笑ひとなるは勿論、日本農民組合員に對しても甚だ以て面目を失する事となるので、此の上は餓死する迄地主に對抗して、初志の貫徹に努むべしと結束して、益々強固となつた。

假處分を受けた者は全く生活の根據を奪はれた事と成つたので、今後如何にして生活すべきかの問題に就て、同村青年會處女會にては、數組の巡回演説隊を組織して九州各縣下を巡り各地に演説會を開き、地主側の橫暴と冷酷なる仕打を社會にうつたへ、同情金を得て生活に充當することを協議し日本農民組合にても、全國三十五萬の組合員に激をとばす外、各種の友誼團に對し應援を求むることゝ成つた。

薄暗き瞑想

水城京

▽

迷羊よ民衆よとのみ書きして
文字續け得ず
ぢつと見つむる

▽

曳かれ者の小唄ならむか
留置場に雛の鳥の唄
きこゆる日のあり

▽

いねがての留置場の
夜のまどろみもうすべりの如く
つめたき夢よ

▽

くろがねの手錠をまへに
泌み泌みと暗き心に
○○を思ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

端書回答

大正十三年四年に於ける社會運動の回顧と豫想及希望並に批評

○ 山川 均氏

最近一年半以上も、組合方面の人の意見を聞く機會なしに過ごして居りましたので、殘念ながら自信のあることが云ひかねます。

○ 土岐 善麿氏

一般原理的な方面には、かなり根柢強く研究された樣に思ひます今後の努力は、「日本の國情」を中心とする考察ではないかと思ひます。

○ 前田河廣一郎氏

「進め」社の被壓迫に對して同情禁じ得ない。福田君の行動に關しては、第一義的批評は別として其の勇猛主義に於て、ダイナミズム其物を貫す。十三年の運動は、直接行動化と右傾傾向との斷然たるクギリを見せてくれたことを感謝する。十四年は鬼ひとり知る。僕もロシアへでも行つて見たいと思つてゐる。

○ 松井 桑氏

一、かつてヘイウッドが云ふた如く——日本勞働者たるものは他の凡ての國の勞働者と同じ樣に資本階級的に對する闘爭の困難を當面に充分に心得てゐる。「而して勞働階級を導く眞の精神を東方に向つて求めてゐる。」——と云ふが未だ十三四年の社會運動も俗惡な宗愚な東方の精神をそのまゝ展轉せしめたにすぎぬ感有り矣。

二、小作問題を中心としての農民の實際社會運動の蜂起する如く豫想せられ候。

三、國際農、大社會運動聯盟を創立せしめき希望有之候、凡て一國の情實を捨てゝ世界運動を起ししかる後に各國その國狀にしたがひ物事の實行を致されたきものに御座候

先づは後日稿を改めて述ぶべく先づは簡單にお答へ申候。

○ 茂森 唯士氏

「進め」正月號質問の答。

理論や原則を摑むことを一種の發見とすれば、此種を健全に生育せしむべき「苗床」の研究が何よりも必要なことである「苗床」即ち日本の特殊性が十分の自覺を以て、換言すれば、主觀的熱情と客觀的正確さを以て、十分に研究され、確知され、把握されねばならぬ。日本の運動の主張が此の自明の眞理に目覺めたことは此一年間の主なる收獲と云つてよからう。來るべき年に對する希望としては、以上の傾向を益々深めんことを、もつと委しくいふならば、あの「苗床」の上に活動しつゝある政治的、經濟的、社會的のあらゆる勢力、團體、黨派、階級、大衆を科學的基礎に基いて精確に客觀的に研究評價して、單に其希望や見解にとゞまらず、此階級意識の程度と戰鬪意志に從つて政策を樹つべきであると思ふ。

○ 尾瀬 敬止氏

たしかゴリキーの言つたことがあります。「日本人は猿だ」と。この伶巧ではあるがタチの惡い猿かます〳〵進んで行きさうです。だから社會運動もなか〳〵骨だと思ひます。が愚鬪〳〵してゐる時ではありません。差當りヨリ大きなヨリ眞面目な團體を組織して事に當ることが急務でせう。

○ 中西伊之助氏

震災當時の官憲の暴力に、威怖し一方反動勢力擡頭と共に、社會運動の急務的右傾——これに失望と痛憤を感じた、テロリストの蜂起。安價なベアリアメンタリストの往行を見るべし——自分等の胸間には、遠からず「勳四等」の勳章を佩用する時代來るべしと云ふ大いなる實際的問題のために。フエビアンのメンバアの大半は、大凡かゝる人たちに遠ざからんか呵々。

○ 藤森 成吉氏

「進め」御返事、

近頃、知識階級の社會運動は、地震以來一停頓の氣味あり。それに反し、勞働者の組合運動次第に深固になり行く感あつて、何より頼母しい。來年は、共により強き運動を望む。

○ 渡邊政之助氏

前略御書面を拜見しましたが例の内紛事件でソワ〳〵ゴタ〳〵して居る樣な譯で折角ですが、さても目下何にも書く事が出來ません何卒不惡お願ひいたします、

○ 新居 格氏

豫想と希望

一、無產政黨を指目するものます〳〵具體化に進出すべし。

二、それと同時にそれに對位する政治並に政黨中立の運動もハツキリすべし。

三、日本フエビアン協會は何らかの變改（いゝ意味か惡い意味かは批評も豫斷も出來ないが）を見るべきか。

希望、對敵階級には深刻に敵對の立場にありたきも同じ反資本主義の立場同志では少々氣に食はぬ事。腹の立つことがあつても今は許し合つてゐたいこと。大したことでない事で感情を興奮させて爭論如れになることは多少陰鬱になります。

○ 小川 未明氏

當然發達すべき思想が、抑壓された場合、それが内面に沈潜して信仰することを否むことが出來ません。この意味に於て、十三年の社會主義的運動はまさに反動時代に遭遇し、或意味に於て、個人主義的色彩を顯著にしました。將來と雖も、堅實な勞働組合は、組員の質に待たなければならないから、自然今後の運動は各職業を通じて、眞に思想的に自覺した活動分子から結合した。無產階級のためか政治運動に展じて行くものと思つてゐます。十四年に、少くとも其の尖端を示すと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

○ 吉田只次氏

僕が昨年九州に歸省の途次、大阪の進め社に厄介滯在中堺氏の出獄が報道された。其際福田君から吉田君達の親爺を大阪に引つはつて來て靜養させようと思ふが、どうだらうとの相談があつたので、それはよい思ひ付だ出來ることなら是非さうして貰ひたいと云つて別れたさうして僕は福田君が稀にない温情の持主であることに涙ぐましい程感じ入つた。處が今年四月九州から歸つて來て堺福田兩氏の間に大感隙の生じてゐることに驚き且憾いた。堺氏は僕の師として仰ぐ人、福田君は僕の兄弟として親しむ人、僕は其中間に在つて大いに弱らざるを得ない。否、僕一人ではない日本の社會主義者中に於て其立場に困つてゐる人が少くないやうである、加之兩氏の間に何時までも感情を纏綿せしめるのは、社會主義運動上の一大損失だと思ふ。さうして僕が之までに聞き及んだ事實を綜合して見ると、結局双方の誤解が其原因になつて居るらしい。處で丁度なここには今回山崎福田兩氏の間に妥協成立の實例が示されたので、堺、福田兩氏も其例に倣つて我國に於ける社會主義運動の[illegible]進轉を圖る爲に、從來の感情を一掃されんことを切に望む。之が僕の大正十三、四年に於ける社會運動の回顧、豫想、希望、批評とだつたやうなもの〻全部です。

○ 根津四郎氏

（回顧）

震災によつて政治的、經濟的兩方面から踏みにじられた十三年度の社會運動界は痛手の回復期と看ふ年であつたのに原因して居るがあまりに實戰鬪に奮はなかつた感がある。

たゞ文書によつて世人に理解させ得たる事はおびたゞしい。

實戰鬪について政治的（議會を通じてのみでなく）に研究する樣な形勢に向いたのは特筆すべきた

（豫想）

十四年度の經濟界は今年より一層不景氣が深刻になるではあるまいか。？……で自己勝手の感情混合理解で進もうとして見て居る兄弟は自然眼醒めゐたらう。……資社會に對する戰術に……勞資共倒れの愚に到る事に……

（批評）

自分は我國に於ける無產階級の解放は國民性、並に政治方面、經濟方面等から見て經濟行動、政治行動の兩方面から進むの利を考へて居る、又我國の政治行動は戰術としてある程度までは議會を通じての政治行動で行かねばならぬと思ふ。

政治研究會の組織された事には喜んでゐる然し、今一層政治的方面の行動は勞働組合の經濟的方面に立脚しての組織及び行動であらねばならんと思ふ。

（希望）

理論に基く行動はいゝがやゝもすると感情になつて理論を左右する傾きが見える、我國無產階級の運動の微々たるを思ふ時、今一度の宏量を希望する。

○ 高畠素之氏

よかれ惡かれ、普選の實現が局面展開の機緣となるのではないか西洋其の儘の勞働黨や社會民主黨も差詰め有り合せと言ふところでやつて見るのも結構、それで存在の意義があれば發達するし、なければ消滅する。小生は資本論改譯の大厄を控へてゐるので、來年の秋まではいたづらを我慢して籠城する。世間も不景氣だし、丁度いいところかも知れない。何かやつて見たい氣は山々擡頭するが、まあ〱と茶氣を抑ゑるのが一苦勞だ。進め、大兄と石川君のためなら隆昌を祈る。日本社會主義といふことは、言ふは易くして行ふは難い。西洋流の理屈を日本流に應用するといふことなら、それも結構であり、たいして六ケしいことでもなからうが、西洋流の理屈をこなして、日本流の學說を新規に叩き出すことはなか〱。

○ 佐野袈裟美氏

大正十二年はこれを日本の社會運動が主として勞働組合及び小作人組合になる經濟行動と少數の社會主義團體になる思想運動とに集中されてゐたところから無產階級の政治行動が重視されるやうになり、その方へ第一步を踏み出した年として永久に社會運動上記念さるべき年であつたと思ふ。日本勞働總同盟に於ても日本農民組合に於ても政治部が設けられ、また政治研究會が設立され、それ〲無產階級の政黨樹立への準備行動へ入つたことは實に意義深い傾向を其處に見ることが出來る、そして大正十四年は更に一步を進めて、無產階級政黨の實現するに運びないと信じてゐる。たゞ遺憾なることは勞働總同盟の關東同盟の內紛である。何とかもつと包容力を見せて圓滿に解決し得られないものか。

○ 鈴木茂三郎氏

いつも失禮ばかりして居ります。「進め」に對する當局の壓迫は、思はず私たちを憤起させました。がいかんせん、その期日頃までは「晝夜兼行」の多忙裡にあつて、何とも方法がありません。惡しからずお仲間にして下さい

○ 林癸未夫氏

日本の勞働組合運動は大正十三年に於て新なる發展時代に入つたものと認める。それは（一）勞働組合運動の高調が空理を弄ぶことを止めて勞働民衆の眞の要に耳を傾けやうとする現實的戰略を採用するに至つた事。（二）政府の新勞働組合政策が除去改善された事の二つに原因するものと考へる若し十三年に於て普選法が制定され、治警第十七條が撤廢され勞働運動の自由を保障する新法律が造られるならば、右の傾向は一層促進されるものと見てよい。

○ 長谷川了氏

護憲內閣と謂ふ奴が行政整理で四萬人の首を切つた。猛烈な身に染み〲と感じられる不景氣、此の問題はこれからだ。十三年中の各所の勞働爭議を見ると其の原因も其の過程も結果も頗る深刻になつて來た。大正七八年時代の財界好況時代に起つた勞働爭議に比較して此の點に大なる或ものが發見せられる。勞働爭議が單なる勞働條件の改善など、謂ふ薄ぺらなものでないことは謂ふ迄もないことであるが、かう不景氣になり失業者が續出する樣になつてから爭議には此の意味に於て大いに考へなければならぬ十四年は更に不景氣であらうと思ふ。從つて爭議も單なる勞働問題のみに非ずしてもう少し社會的に深い所からへらるべきものがあるだらうと信ずる。[illegible]議會では普選が決定されるだらうが之に對し、多少考ふべき點もあらう。

○ 松尾茂樹氏

日本の社會運動家がいつも喧噪

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さして居るのにはあきれた。
大した仕事の何一つしても居ないくせに、かうまで、内輪揉めをするとは奈邊に原因があるのか、考へないでは居られない。
それも、あまり、主義主張の爭ひでない・個人的な醜い爭ひばかりして、得た憤りをおぼにないでは居られない。ぐず〳〵云わないで一つでも仕事をしてくれよ。
私はいつもそう思ふ。撲つたり、拵づいたりすることなら、いつでも出來る。出來ないのは仕事だ。運動を進めることだし、新聞で見るトロツキーと共產黨幹部の爭ひも、若しそうならば、天下とつた後のことで、恒例年末年始行事としてスイ狂に好いかも知れぬが、日本ではそんな恒例は眞平だ。止してくれ。

○

佐々木嘉三郎氏

東北の農村に就いてだけ言わしてもらひます。十三年度は農村經濟の破滅を徹底的に宣告された年でした。その現象の一例としては自作及、自作兼小作の沒落、小作人の借地返還及失業者の激增等です。從來、東京地方では、地主が小作人に對し、或特殊の溫情關係とを以て瀕死の狀態にある彼等の最後の命を繋いで來たのでしたが、本年は不作でもあり、殊に經濟界破綻を來てゐますから(搾取率が不充分であるため)勢ひ、小作人に對し宿年の借財を交換條件として奴隷の地位に彼等を落して了ひました。茲に到つて素朴な農民心理の一隅にも—所謂地主の溫情なるものも、要するに經濟的搾取する手段に過ぎないと云ふことを露骨に見せつけられ—階級意識に目覺むべき機會を作りました。一方、地方集落地に於ける中產階級の沒落者と相俟つて一つの大きな社會運動を起すべき機運に到達してゐます。然し之等の激增せる細民無產及中產階級沒落者の心理的傾向は或人達の云ふが如く、一面悲觀すべき傾向を多分にもつてはゐる。要は當時の問題として、その指導如何が決定すべきものであると思ひます。かうした意味で、地方及中央により指導者が欲しい譯です。十四年は表面だつた花々しい社會運動が無論その姿を表さすに着實な統一した社會運動が起り、その點に於ても質に於ても一般の進步を見せることゝ思ひます。

○

松下芳男氏

大正十三年の社會運動の回顧。大地震で社會運動など何處へかフツ飛んだと思つた人に對しては氣の毒な位の底力を見せて、堂々と陣容を張つて乘り出して來た。大正十四年の豫想と希望、其乘り出した小細流は今年に於いて或程度でもいゝから見流して貰ひたいし、又それを希望する。

○

川口K介氏

地震後、社會運動家連は悄つからいくぢなしに成り了せた。自らを顧みても、全く恥入る次第。もう時節が時節た「回顧、豫想及希望」なんて御託は拔きにして
○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○
我が手には○○○も○○○○も無い。三寸の舌はドモッてばかり居る。五尺六寸の闘う體は、枯木然と踐はてやがる。「回顧」は恥と悔ばかり、上ッ調子で上辷りの方向轉換論以後、へピアニズムの流行までに、何が掴めるものか。御面白く御話を並べてゐる先生達は、それで飯が食へるのだから幸福だらうが、こちらは全く、恥と悔ばかり、「豫想」は所謂社會運動家達にとつては、全くのところ普選實施後の馬鹿騒ぎに懸けられてゐるらしいが、そしてそいつは可能らしいが、あゝプロレタリアトは災ひなる哉、だ。
プロレタリアトは何等の「希望」も、現在の社會運動の大勢に見出し得ない「寄らしめよ、知らしめるな」式の現在の社會運動の大勢を、我々はあくまでも呪ふ。何處まで改良されても、惡き樹はやつぱり惡き果實を結ぶからだ。が、社會運動家達の諸君如何に關はらず、プロレタリアトそれ自身の動き方には、顯著に反逆熱が高まって來たことが見取れる。蜂の巣に火が掛つたことを、蜂達は臆ねるのだ。
もう永くはかゝらない。我々は痛切にそれを臆ねる「勞働者の解放は勞働者自身の經濟的△△△△で」それが始められる日、我々は盟つて、おためごかしの社會運動家達の屁理屈を頂戴してやる。

○

布施辰治氏

大正十三年の社會運動を回顧して、第一に私の頭に浮んで來るものは、其の政治運動化である。
私は、何時かも「進め」に書いた事のある通り、大正六年早々既に社會運動の急潮に深く期する所ある、徹底急進の普選を提唱しつつ社會運動に這入つて行つた者である丈け、社會運動及政治運動化と云ふ事に多大の興味を有つが、又、夫れ丈け大正十三年度に於ける社會運動の政治運動化には、ブルジョア政治の餌を卸した普選斷行に引摺られて居るらしく思はるゝ點に不安がある。
ほんとうの社會運動としての政治運動は、無產階級解放の精神に立脚して、自主的にブルジョア政治を解剖批判すると同時に之を顚覆する爲めに彼等を引摺り廻すものであらねば爲らないのである。
故に私は、大正十四年度に於ける無產階級の政治運動が、是非左樣あるやうにと云ふ事に、多少なりとの活動と貢獻を期して居る。

團結權に基づく只一つの武器

==過去六ケ月の氣憶を辿って==

吉田源藏

過ぐる大正十年十一月東京驛頭に於て兇双に斃れた平民宰相あの原敬が組織せる内閣以來歴代の政府が地方官會議や司法官會議に於て或は其の他の幕僚や部卒に訓示するに當り社會問題に言及すれば必ず「健實なる社會運動を阻害するが如き事ある可からず」と云ふ事を繰返して居る之を傾聽して居る處の賢明なる官僚諸君は一體此の文句を何と解釋して居るのであらう最も訓示する方もあんまり意識して居る樣子も見えぬが聞いて居る連中は頗る怪しいものではあるまいか彼等實力行使の任に當つて居る官憲共は此の「健實なる社會運動を阻害する如きある可からず」とあるは勞働運動を起さしむ可からず……最も勞働運動は社會運動の全部ではないが……同盟罷業を煽惑せよプルヂョアーをして充分搾取するに便あらしめよプロレタリアーをして被搾取者たることに甘んぜしめよ或一被搾取者たることに滿足しない者には國家の權力を以て束せよ拘留せよ起訴せよ告發せよ科刑せよ、職業を奪へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

死に導け位に解釋して居るにはあらざるか換言すれば「健實なる社會運動が阻害するが如き事ある可からず」とはブルヂョアーがプロレタリアーに對する搾取の自由を確保せよとでもある如く解釋して居るのではあるまいか事實今日の官憲は斯く考へて居るのであらう彼等が如何に陳辯釋明に勉むるも其の行動が明かに證明するところである凡そ國權が發動し一ツの事項に對して保護干渉を行ふ場合は嚴正に且つ最も公平に行ふ可きである苟且にも偏頗な事があつてはならぬ

嘗て起りし關西の交通勞働爭議の内大阪市電爭議に於て或は京都市電の爭議に於て其の官憲や市當局者の妄動振りはどうだ組織的に行はれた大阪市電爭議に對して手の出しやうもなく四苦八苦其の結果彼等官憲は家宅侵入罪とか途徹もない甚た縁遠い罪名に依つて漸くにして忠勤振りを發揮し罷業幹部の拉致を行ひ輕うじて彼等の所謂重大なる任務を果すに致つたのである獨り官憲のみならず爭議當事者たる市の當局はどうだ市民の聲とか天下の輿論とかに名を藉つてイエローペーパーをして煽動さか公敵とか言はしめブルヂョアーの小倅をして電車と人間生命身體とか云ふ貴い玩具を與へて社會奉仕とか云ふ遊戯を爲さしめたではないか京都市の交通勞働爭議に於ける黑さんとか白さんとか云ふ光榮あるニックネームの所有者であるサーベルの親方の言草はどうだ、「萬一同盟罷業爭を決行するならば治警法に依つて容赦なく檢擧す、罷業に依らずして怠業如きに出づるなれば背任罪に依つてどしどし處斷する」と御氣の毒たが吾等が期せずして同盟罷業を行ふ事に一致して團結權が發動したら治警法を何處に適用するんだ大阪のやうに家宅侵入に依つて處斷するか問屋はさうは安くは卸さんぞ什樣もないところに力瘤を入れないで驛事件や十五萬圓事件等の借金さては部下から死刑囚や殺人犯を出さないやうにして頂き度い勇敢なる刑事巡査の一人や二人幕僚から出したとて是等の事件と棒引きにはならないんだ京都市電の爭議當時の官憲の妄動振り……いや忠勤振りは僕のやうな口下拙や不精者には到底言ひ盡せない僅々數名に過ぎない懇談會を集會に基く形式を強要し私生活上に迄立ち入り文書の秘密に迄及んで濫りに審問を敢てする等言語同斷横暴の極まりであつた

けれ共事の成る迄は彼等の國權の發動が私情に依りて爲さるゝを恐れたから彼等の言ふが儘報告の材料を提供し事態の進捗を計つたのであつた斯くの如く我等はあらゆる干渉と迫害の中を切り抜け協議に協議を重ね遂に市當局の言ふが儘に共濟會と云ふ機關を通じて現業員を代表すると自稱する共濟會長をして嘆願書を市當局に提出したのであつた而して誠意ある?處の回答を得たのたそして解雇者を八名出したのた市當局は各出張所に揭示して曰く「能く皆自重せられ圓滿なる解決を告げたるは寔に欣幸とするところなり云々」と何が圓滿な解決た解雇者を出しながら馬鹿にしてゐる……と怒るまい所謂「ものはとりやうによりまして」た彼等は實際に圓滿な解決と思つてゐるのたらう現業員を代表する私は共濟會長として現業員とか「私は圓滿な解決を遂げ度い」の運動の陣頭に立たねばならぬ」等と吐ざいて居ながら八名の解雇者を出すに當つても自ら其の人選を部下に諮り常々と自身の口から解雇を宣する等常人の到底爲し能はざるところである二重人格も此處に到つて全く徹底したものだ據から解雇者を八名も出しながら圓滿な解決を遂げ得て欣幸の至りた圓滿なんて大平振つて居られるんたストライキさへ決行せねば彼等は圓滿な解決たと思つて居るんた例へ失業者が何人出やうとも

市當局が回答に際しての言句中の一節に曰く「目下一般事業界は著しく不況を呈し西陣方面は休機せる向きも少くない最近の勞働爭議の多くは消極的であるに獨り今次の各地の交通勞働爭議の多くは積極的にして賃銀の値上待遇の改善を主眼とする事は多少遺憾に思ふ」云々と彼の企業家には總て不況時ある同時に好況時代が必ずあるしに何も彼等の不況時代の悩みに我等が並行す可き義務を有せないんた強て之れに倣はなければならぬなれば彼等の好況時代にも我等をして併行せしむ可きである不況時に於てさへ此の我等交通勞働者の苦衷は企業家が不況時代に味はふ苦境の比ではないのた。

度量衡器の査定吏員が普通教育を終へたもので月俸三十圓の巡査の俸給が何のと官吏の俸給と勞働賃銀とは全く譯が違ふんた法學通論や行政法の一頁を嚙じたものなら斯の如き誤駄句は吐けない譯た我等が現在受けつゝあるところの賃銀や安息時間は我等が常に提供しつゝある勞力の爲めに消費する身體筋肉を到底補足する事が出來ず常に疲勞困憊して居るのである賃銀や安息時間の不足のみならず勤務中の食事の時間を與へないとは何事た一ケ年に約六萬圓を計上するなれば三十分の食事時間は誰にも與へらるゝものた食事すら自由にさし得られぬ須臾も忽せならぬ重要なる交通機關の電車なら其の電車を動かす人間はより以上に重要なんた貴いのた大切なんた市民を代表すると自稱するもの一千百人の京都市電乘務員に食事時間三十分を與ふる爲めに要する一ケ年僅々約六萬圓の經費を市民が果して拒むと斷言し得るか

内閣總理大臣は片足でも勤まるんた代議士は盲目でも差支へないのた二千石の知事閣下た自己主管地域の東西すらも知らずして局長樣た六法全書以外何ものも有せない斯道に一隻眼を持たぬものが交通運輸の一部の長で納まつて居られるんた此の種の役目なら一日に一回位飯を食はず共疲勞する如き事は萬々あるまいけれ共片足や盲目お天と樣の出る方の御存じない坊んちでは役に立たない我等乘務員は飯を食はなければ働けないのた、

大阪市當局の宣傳の尻馬に乘つたイエローペーパーは論說に曰く「現業員の要求事項の是非は別問題として公益の事業に携はるものが突如の罷業は暴擧である」と而して追加して曰く「公敵なり」たそうた要求事項の是非が別問題で罷業が暴擧とは何事た要求事項の是非に依つて罷業が當然の權利行使となり或は暴擧ともなるのた新聞の責任は事を嚴正に公平に批判するところに存するのた今日識者間に勞働者の罷業を罪惡なりとするものありや正當なる場合に於ては堂々行使せらる可き我等の團結權に基く唯一ツの武器である此の權利行使に批判を加へんとすれば先づ依つて以て起りし因果の關係を紊さねばならぬ原因を顧慮することなく結果をのみ斷ずるなれば檢事も豫審判事も全く不必要のものた彼等のエローペーパーは要求事項の是非を論ずるには頗る不都合なる行き掛りがあるにはあらざるが但しは批判する能を期せない

三十頁へ續く、

青年運動

社會運動に於ける
青年運動の役割

佐藤光敏

一

序說

現今の社會運動界の傾向を凡そ二様に分ける事が出來る。一つは議會利用論者の「議會利用說」一つは徹底的議會否定論者の「議會非利用說」是れである。今、混沌として其の優劣を決し得ない。けれども一般の大勢は、「議會利用說」に傾いてゐると云つて差支へない。震災後、頓に大きくなつた感がある。いや、震災當時の加藤內閣の普選になつて待つてました、とばかりに「政治運動へ?」「議會利用へ」と「方向轉換」を叫び出したのであらうけれども「政治運動」と云ひ「議會利用說」と云ひそうして一時流行した、「方向轉換」と云ひ是れ等、一時逃れの悲鳴若くは日和見主義者の囈語に過ぎないと云つてよいのである。「方向轉換」を叫び出した山川氏は獨逸のシャイデマンが一派を日和見主義者とケナした事があるが今や御自身それ自らが其の仲間へ入つて行くのではないかと密にロシヤ共產主義日本一手專賣屋の爲めに驚かざるを得ない次第である。

二

ホンの三年前山川氏よりも一年早先に政治運動を唱へた者が今は其の當時議會等と云ふものなら、ブルジョアデモクラシーの墮落た等と罵倒した先生達が今は「方向轉換」の元祖として治まり返つて御座るからアレコレ人の事を、「日和見主義者だ」等と大きな聲で云へた義理ではないのである。

先づ、現在の日本を風靡しつゝある議會利用の政治運動をば我等も肯定に躊躇しない。けれども政治運動は今更に限つた事ではない。此の戰術をば何故五六年七八年以前から唱へなかつたか。それは云わずもがな、前にも云つた如く一時逃れの悲鳴に過ぎないと云ふ事である。あまり前置が長過ぎたが是れより本論に入る。

三

今や我國社會運動の大勢は議會利用說」に集中した。吾等は是れに向つて進行する所の運動の主體を監視せねばならぬ。幾久しく政治運動の叫びと共に無產階級政黨の成立は此處幾年を待たず共其可能性を觀られる。そうして日本勞働總同盟は云ふに及ばず、一時自由聯合論を唱へた機械聯合等、政治運動へと歩を進ましめる。其の強に於ては最早ゴムパースと差別のない人達迄も大浮れに浮れ廻つてゐると云ふ程である。持つて「方向轉換」の藥の利目の程も恐ろしい譯である。

二

此の時、吾等無產青年の覺語が最も必要となつて來る。此處數年青年運動の聲は全日本を蔽ふてゐたものである。而しながら今は其の影をも見られない、或は其の運動の戰術の巧妙になるものであるかそれも判らないが、一般に見て青年運動の聲は寂として靜まり返つてゐるのである。

我等は此の重大時期に面せる我國社會運動界の現勢を眺むる時、此處に吾等は奮起せなければならない。

政治運動の叫びと共に原加藤內閣は「普選」を曲りなりにも卽行しそうである。そうして「普選」と共に擡頭するは無產階級政黨であると云わなければならぬ。無產階級政黨の成立された曉は云はずもがな急速度の政黨氣分の墮落であると云はなければならぬ。否現在に於ても往年のロシヤ共產黨は何處へやら、英國勞働黨へと早速、橋渡しを架ける忙しさである。

三

是れに據つて見るも彼等日和見主義者共の最期は判り切つた事である。よく出來て獨逸のシャイデマンか英國のマクドナルド位のものたらう。政界の辣腕家であり花形役者などゝ云はれて見たい人間共の事であるから思ひ半に過ぎるであらう。

我等は最早斯樣な日和見主義者の下に指し圖を待つて居る程低能ではない。寧ろ我等が彼等を鞭撻せなければならない役割を有してゐるのである。往年の獨逸○○の花、カール、リーブクネヒーの如く「未來は青年のもの」と叫んだ事を思ひ浮べると今更に我等の責務の重見大なる事を痛感するのである。

四

人生の花は青年時代にある。青年時代を人生よりマイナスすれば人生はあり得ない。青年時代に於ける人間は一生涯の中最も華やかな活躍の舞臺である。老年期に入れば最早、其の人自身は或諦めを心の中に感じ初める。そうして決斷力がなくなる。決心が鈍る。己の理想に對して無氣力になるのである。

五

我等が持つ最上の誇りは青年である。と云ふ一點にある青年は何かを思ひつめてゐる。人生の中に何者かを掴まふとしてゐる。そうして其の掴んだ者、眞理―其の眞理に對しては猛然として突進する。青年は情熱の子であり力の親である正義の使徒であう。眞理の探究者である。其の外の何者でもない

我等の前には たたる理想の社會があるのみである。其の眼の前をば斷せんとする者には斷乎たる處置を取る。此の場合の暴力、理論は敢て罪でも何でもない此の社會が一切、力によつて征服されてゐる如く、眞理も正義も現在ブルジョア階級專制の下に深く地下に埋沒されてゐる。それを掘出す者は絕對の眞理を守る勇者のみである掘返せば埋められ、掘返せば埋められつゝ、人類の眞理を探究して居る者は足た、跪く情熱の子、青年それ自體の外にはない。

無產階級政黨は將に成立せんとしてゐる。此墮落は火を見るよりも明らかである。是れを救濟する者唯無產青年あるのみである。

青年運動の目標は正に理想に突進せよ!これ以外の何者でもない「戰術」の名に隱れて「理想」を喰物にしやうとする日和見主義者の撲滅を以つて我等の運動の本流を守らねばならぬ。

× × ×

投稿に就いて

△地方の通信及び其他の寄稿は成可く原稿用紙を用ひる事。

△氏名を明確に記する事。無產階級の解放に資するものなら何でも投稿を歡迎する。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

青年運動について

北村春男

私は青年運動に絶大の信頼と期待とを待つ。地方農村に於ける社會主義の宣傳の如きは殆んど絶對的に青年以外に期待をもつてゐない私は農村に居る者であるから都會の事は言はれないけれども都會に於ける初期の運動も亦確にそうであつた事と信ずる。

古來凡つてあらゆる〇〇運動の先驅を試みた者は悉く夫れ青年である、近く一例を上ぐれば明治維新の革命の如き、あの△△の先驅者として今日青年社會主義者をして常に渇仰せしめておかない處の吉田松陰にしろ橋本左内にしろ西郷南洲――青年時の――にしろさては櫻田門外に於いて當時の過激社會運動取締法の元兇伊井大老を切り捨てた水戸の浪士達にしろ或は誰にしろ彼にしろ悉く青年である。吉田松陰は二十九歳橋本左内は二十四歳にして千住の小塚原で惡漢伊井直弼の毒刃に依つて刑場の露と消ゑた。

かくて私は青年に絶大の信頼と期待とをもつ。

◇

私の村の所謂要路とかに立つ頭の禿げた頑迷に光り輝く成老年たちは私らによく「君達二人や三人が騒いだ處で世の中がそう早く良くも亦變りもしない」といふ。然るに見よ全國各地到る所に青年會或は何と青年に依る研究會が生れ出した。吾が山陰に於ける二三乃至四五の――初めは――先驅青年が亂打した警鐘に、明に暗に、誰か呼び醒まされなかつたと言ひ得る勇氣を持つ者があるか。そして其の二三四五の青年先驅者を生み出した社會の進化の有樣と資本主義の必然的運命の斷末に近づけるを鈍感頑迷の徒も最早そろ〳〵感づいてもよからうと思ふのである。

要するに冷靜なる理性と火の如き熱情と鐵の如き強固なる意志と力を持つ青年に依つてあらゆる運動の最初の啓蒙より最終の〇〇迄の運命は決定されるのである。

かくて私は青年に絶大の信頼と期待とをもつ。

◇

青年は敏感である、光明への暗示に……。

一切の不合理、一切の惡に反逆する正義の觀念に滿ち充ちて居る。無産階級大衆の正義を諦視して直に驀進する丈けの勇氣と決斷に富んでゐる。

マグドナルド組閣以來議會否認より議會進入議會利用議會萬能に右傾惰落した今日の無産階級解放運動に向つて一大痛棒を突きつけて〇〇に直進せよと絶叫し明示するものは青年である。

かくて私は青年に滿腔の信頼と期待とをもつ。

◇

組織なきものは烏合の衆である。そこで我等青年は何はおいても組織――青年の組織及び大衆の組織へと――を急がねばならぬ。青年の組織は一地方一地方一部分より初まる。一地方の〇〇的青年先驅者が少くてもいゝ、直に結合せねばならぬ。二三四五人でもいゝ、直に結合せねばならぬ。此の結合體に這入つては一切の野心を忘却してかゝらねばならぬ。私は從來到る所に於いて結合された青年結社がすぐに解體するのは支配階級の壓迫迫害のみでは無いと思ふ、そこには野心家があつて其の結合體を統帥しやうとか或はそれを利用して賣名をしやうと言ふやうな下劣なる者が有るからである。一の結合體が成つたならば銘々皆同權である。そして其の内の一二名の年長が事務を世話せねばならぬと思ふ。この先驅者の結合體が又各自の周圍の一般青年の結合、統制、指導、敎育を成し遂ぐべき重大なる任務があると思ふ、これ即ちかの大衆の中へ」であると私は信ずる。話しは前へ返つて一地方一部分の先驅青年の結合は一縣となり一國となつて茲に初めて大なる全國的青年の組織は結成されると思ふ、そして政治運動なり經濟運動なりが出來得ると思ふ。

かくて青年は偉大なる力を具有する未來社會の建設者たり得るのである。未來は青年のものである。國際青年運動の父、かの聰明勇敢なる獨逸のカールリープクネヒトは『青年を動かすものは軍隊を動かす』と叫んだ、そうだ、此れは眞實である。何故なれば軍隊の主體は青年であるからだ。世界のブルジョア擁護の軍隊をして民衆擁護の〇〇たらしめてこそ、この日こそ、〇〇は成就し、全人類の上に光明の輝く日である。

かくて私は青年に絶大の信頼と期待とをもつ。

萬國の無産青年團結せよ！

起て！無産青年

大森眞市

時代の本流は滔々として何物をも押し流さではをかない。而して瞬時たりとも停止する事はなく本流は常に文化に向つて進行してゐる。

然るに此の本流に逆行し、此の巨人の如く流れ行く力を堰止めんとする愚劣頑冥な徒輩がある。それは說述する迄もなく、全無産階級の頭上に泰然と安座して、橫暴、專制、搾取を恣にする特權階級及び資本家階級それである。吾人は近世史明治維新を顧みよ。時代の進化變遷は必然的に明治革命を惹起させたのである。德川三百年の泰平、所謂封建制度が、維新の先驅たる憂國熱血兒の、熾烈なる討幕運動にモロクも破壞された事は、畢竟するに時代の本流を物語る必然的變遷に外ならない。然るに維新の革命は單に、既成政治制度を破壞し、經濟組織が新經濟組織に移化され、既にして吾人は長期間ブルジョア教育を注入されたのは、何人と雖も肯定し得る事實である。恐る可き彼等の魔手は、一寒村の小學敎場裡に迄はびこつてゐるのである。我等は百年間の安泰を豫兼して、所謂官製青年團の產出に腐心してゐるのである。既に存在してゐる官製青年團は最早ブルジョアの術中に落入つたのである。我は叫ぶ官製青年諸子よ今一度現社會狀態を細密に批判せよと。

眞理を求むる青年諸君、正義を愛する青年諸君、人類愛を主張する青年諸君。老猾なるブルジョアの網は到る處に擴がつてゐる。彼等は宗敎家と結托して、彼等をして口に平和、正義或は人類愛を唱道せしめて眞面目な青年諸子を欺瞞して、憎むべき徒輩の奸策に引き入れんとする阿片に外ならぬのである。

然るに吾人は餘りに自己を輕視閑却し過ぎるのである。換言すれば自己の社會的存在價値に無關心である。

見よ、今や日本の經濟狀態は窮極を告げてゐる王政復古の實現を顧し

（以下二十一頁へ續く）

全土戰報

農民運動と青年

小出黎一

空想なるかの如く社會主義を見做してゐた。農業勞働者も、偉大なる進化學説に同意説を唱ふるやうになつて來た。

彼等が主義思想を惡魔の如く恐怖して居る。無理解には、自分達の貧僻の力の弱いことを、悔ゆないでは、居られない。もう農村の中產階級は沒落してゐる。それでも氣強く『こんなことでは百姓が死んでしまふだ』なんて來年の米價を鋼り價もつけて待つてゐる。

嗚呼慘酷なるブルジュアーよ吾々兄弟は餓死を待つてゐるのではないか？

この悲慘な生活に對して血も淚も、無いか？

それは當然無いに決つて居る。吾々は刻々に死に近づき行くのだ田地田畑はみんな土地の、資本家の爲に低當として權利をやつてしまつてゐる。毎日利子が加はり終りには、彼等の爲に土地を沒收されてしまうことは火を睹るよりも確だ。

荒びた農村に恐怖を待つ青年は都會に流れて行く、老たる親とはの世を呪つて居る。

自分達は最う眠りより醒てゐる彼等に對抗する、唯一手段として吾々に團結があるのみだ。

次第にこの罷陽平野にも、階級闘爭觀念が強くなつて、三四ケ所では小作料輕減で成功を見てゐるオ、俺等の郡はすでに實行運動に加はつてゐるのだ。この種のあらゆる團結的な爭議が諸所に起りつつある。

そしてその組織せる組合及び此の種の集團を見るや當局の干渉は實に、彼等の無智を翳かざるを得ない。

然し吾々は、今や干渉や壓迫を充分に豫期して運動に參加してゐるのである。

斯かる干渉に帝國主義者たる父親は、子に對して主義思想を毛嫌し、如何にして自分の子を導くかといふ事に色々思案し「家に居るな……」なんて勝手な愚痴でせめつけるが、俺等はそんなことに服從する自分なら生れて來はしないのだ。

凡有干渉と壓迫と迫害とに打勝つの義務とせねばならぬ。

狂ふやうに雀の鳴くのが神經を刺戟する、今、この野邊に新正月を迎へて何ものかを、得ようと思案してゐる。春雨なんだが資本家の腹の様にどす黒い空から斷へず雨を降つて神經を鈍くする。終

戰況一束

裏日本はもうすつかり冬仕度だ、平地にもみぞれが數回降つて四方の連山は毎朝眞白になつてゐる勿論、此の稿が同志諸君の眼にふれる頃は此の町は死んだ様に凍りついて了ふに違ひなし、こちらの同志は傷んなにせつぱつまつてゐるのに冬仕度が無い程貧乏な者ばかりだが元氣がい〻、毎日野球の練習をやつてゐる、いくらひいき目に見ても除り上手な部類では無さそうだが我等同志の投手は他のチームの連中から嫌はれる糞力を出して無茶な投げ方をするからたさうたお蔭で同志の野球をやる連中は交り番こに手の脂を傷てゐる

奇特な官憲

他郷は知らぬが吾山形の官憲中には非常に奇特な者で多い、例へば山形憲兵分隊、山形警察署員前は下士級以下後は巡査部長級以下に所謂「進め愛讀者」が澤山居るからである、而も九月及び十月號の如きは發賣禁止のものとは知らずにお買上げ下すつて數日後にそれと知り「代金を返せ」等と迫つたに至つてはチト奇特も利き過ぎたと云ふべきだらう、やがて之等の人々には「進め有功章」でも贈ることに仕やうか

小作爭議

酒田町には日本有數の地主本間を始め大地主が澤山居るので爭議の傾向は數年前からきざして居り近頃それが漸く組織立つて來た即ち小作人側には耕作聯盟あり地主側には郡長や郡農會長等が二三ヶ月前に奔走してデッチ上げた飽海共榮組合なるものが合つてゐる、一體酒田町地方の地主と云ふ奴は水飲百姓の野呂間なのにつけ込んで田地を貸す時に小作人から敷捨金の名目で甚だしいのになると一町歩に付き百圓以上の金をせびり取つたもので丁度借家の敷金と云つた具合のものであるが其の異る所は田地を返しても小作人に其の金を返さないのだから年貢米の外に莫大な小作料の二重取りをしてゐた譯である酒田地方の爭議は此の敷捨金撤廢運動に端を發してゐる此の運動が喧しく小作人間に起つたのは二三年前からのことであるが結局地主側の敗けとなり敷捨金返還を地主連が發明し實行したのは昨年の秋である、然し黎明の曙光を認めた小作人は天の岩戸を開かなければ承知しなかつた、今度は小作料の引下と永い小作權の設定を迫つた勿論此の時は小作人は各村擧つて團結し耕作聯盟に加入し其の勢ひは輕視を許さない迄に進んでゐた、此の間兩者を調停すべく奔走した官憲は幾度となく失敗を重ね其の無智を天日の下に晒したことではある……此處で地主側でも今日迄お役人に頼つて今日迄個人的立場から小作人側と對立しては見たもの、結局地主側の敗戰に陷つたので所詮でも百度撲られた人のそばには寄り付かない如くお役人の差がねで共榮組合なるものを組織したこれは地主と小作人側から委員を擧げて協議する協調機關であると地主と官憲は吹聽してゐるが小作人を其の組織の當初にあづからしめず地主と官憲がデッチ上げた共榮組合規約なるものの内容を一見すれば其の地主擁護機關であることは直にうなづかれることだ小作人側がこれに應じないのは勿論である處でつい先月中旬此處に最も悲慘な事件が起つたと云ふのは耕作聯盟の小作人は地主齋藤某に對し大正十二年納米一千餘表(百二十石)中其の幾割の輕減運動を試み齋藤某は去月初旬に至り漸く聯盟側の主張に屈し其の輕減を認めたのであるがサテ小作人側では其の納米は皆食つて了つたので納入することが出來ないへメに立ち到つた、二三日後に地上の人が皆死ぬるのなら早く食つた奴の得になる寸法だがそう問屋が卸さないから始末が惡い、かねて耕作聯盟に眼を光らしてゐた縣特高課からは去月(十月)下旬島津某と云ふ課長が自ら酒田に出張して同町の檢事局と打合せの上翌日一齊に檢擧の手を張つた、目下縣秘裡に數十名の小作人を取調べ聯盟の幹部小島小一郎君の家宅捜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

査を行つたが小作人は極度におびえてゐる目下此の問題は如何に進展するが頗る注目されてゐるが要するにこんなことは其の時代々々の官憲が職務然に並けられてやつてゐることで官憲自身貧乏な奴が多く且つ此を割つたら小作人の斯うした運動そのものには返つて與してゐると觀るのが至當なんたから又陣容を新にして一層猛烈にやりませうと云ふのが聯盟幹部側の意嚮の様である、今後は庄内地方（東田川、西田川、飽海）にはこんな運動は馬も食ひきれない程起るたらう、政府の小作調定法（御手製の有難い）施行區域外の光榮をになふ山形なぞと云ふここにはおかまひなしに（山形支局）

米子便より

今年は時候にもない雪が例年より二十日程早く降つて立稻がみんな倒れて了つた。

農村へ出かけると御百姓連がこぼすまい事、何でも勞力が倍以上たといふが地主は無頓着、早く年貢を持つて來いと待つてゐる様たが今年はそう安々と收めない形成た。農民組合では下相談がすつかり定つて永久三割減といつた風な要求をするらしいから地主は隨分驚く事たらう……。

◇

一時、かなりであつた國粹黨は近頃社會主義になつたのか、又はつまらない事をしてゐたと改心したのか影らしい影もあまり見ねぬ夜中に時々拍子木をたゝいて赤火防止の番にやつて來るぐらひなものだ。

◇

別に筝を病む程の者ではないが此の不景氣に米子町長を始め在郷軍人と云つた風な連中が、謂ふに「赤化防止」の眞似たらう、何々會とかの大カンパンをかけた。その中から出て來る分子が町の十字街の片隅で天業青年團と印た提灯をあかして其の下で○○○な警を出して道行く人々を集めて喋ばかり並べて時々野次られてゐる。奴等は亡國を救はんが爲めに不景氣を絞つてゐるたらうが返つて○○○哀愁に閉ざされる、

それは聞く人にもよるが俺は彼等の姿を見ると、心をうかゞうと氣の毒に絕ねぬ感が湧く、寒い時なぜ二三人をあひてにやつてゐるんたもの！腹の空つた勞働者にはとても聞いて居られぬと見ねて直ぐ行つて了ふ。少くとも科學的智識を不知不識の中にでも意識してゐる青年には雲を掴む様な宗教には迷はない筈だが、因酬と傳統に捕はれてゐる現代人には軍國主義の官傳と相待つて安々と來る青年もあるが好く考究して見ると、彼等の演說を聞いて[illegible]は行路者の様なものだ。

◇

此間の諸兄の山陰講演宣傳は樂じやないがキ、メが追々見ねて來る。先づ進めの講讀者が多くなつた事、色々な青年がやつて來る事等だ。で、せまい薄暗い支局と先が落ちて來た。政治運動の準備らやる話もあつた。又新聞も出す可くかゝつても居る。諸兄の御健闘を祈る。

（米子支局山本勇）

小作人の叫び

人間社會を惡化するものとである、小作人を苦しめるものは土地所有者である。

寒暑風雨にさらされて、汗を流して黒くなり、土を相手に働いて作つた米は食はれずに、みんな地主に奪はれる、こんな制度はなくしてしまへ奮起せよ小作人。

俺の生れた家は他人のもので、今俺の立つて居る此の土地を作つて居る田畑も皆他人のものだ。一體俺の身の置き所はどこなんだ。地球の上に生れた人間は皆同じではないか、慾張り欲張る地主等も小作する俺達も死ねば同じ墓場の土の中である……

惡い地主に苦しめられて
土地を耕す小作人。（呉南）

秋田の雪空より

搾取階級對無產階級、妙な組合せた。何となく不思議な型を造つた現代社會は兎角現代社會の搾取階級有產階級者は、何事にもテイのよい意義に於て、搾取的行道を取る、血、肉、皮、骨の骨まで削り取る苛酷な勞働否虐使する。

搾取した黄金肉塊を以て、奴等は傍若無人にも、酒池肉林的の豪奢を極むべき榮華を恣に、住むに家なく家賃は月毎昂騰して、窮々して居るに、往來ふさけな宏大な邸宅を建築へ段々と陣地を擴し、空[illegible]いて勝手氣まゝの限りを盡す、それで怠けて居ても富み榮て行く、引替て流汗、流血の慘たる勞働に日前にせまる死さへ知らず、勤勞して居るにもかゝわらず、住む家は九尺二間の荒家に雨も洩り、ロクな御馳走所か二度の食事すら、滿足に頂戴出來ぬ者もある、實に不合理な矛盾撞着極まりなき現社會制度ではないか、所謂『稼ぐ者ほど貧乏する』何と云ふ悲痛な而して悽慘な叫びであらう、時機は眠つて居る事を許さなくなつた、一切社會は腐敗して居る、最早官僚軍閥も頼みにならず、又政黨政治家も頼みにならぬ、橫暴極まりなき強慾無道、無恥貪慾のブルジョア階級對プロレタリア階級の挑戰期は今だ、既成勢力すべてを打破し、根本的改造新しい天地を開拓せねばならぬ、秋の空は高い、そして淋しい、幾多の壓迫危險は滔々と「進め」社同志の身邊に襲來する事であらう而し堅實眞劍の同志諸兄、相互激勵の手に猛進しようではないか、眞赤な血潮の押寄するように

（秋田市支局環不朽）

（六頁より續く）

それで雜務の傍、進な社の斷片々々の長い様なものを、これから一頁位連續書くことにいたします。無論私の書くものが階級意識を持つてゐると云ふたけで興發段の鑑から天上を覗き、橋の下から道路を眺めて書くスケッチの類であることたけは事實でしようが、橋の下も、段の鑑も、共に社會を形成してゐる一つの場所ではあり得るが故に、そこに住む住民の頭に映ずる、社會相のスケッチに依つて進めの一頁位は話しても、强ち罰惡でもあるまいと「書いたらどうか」と云ふに附け込んで僭越にも「書く」と云ふ獨斷的決意が生れた譯です。諸君の方で、面白くなかつたなら中止を御命じ下さい（終り）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

只一つの使命

三村光子

私達無產階級の女性が、如何に虐げと迫害に苦しみながらどん底に呻吟しつゝあるかを考へる時に私は、如何に現在社會が不合理に出來て居るかを痛切に感ぜずに居られません。

然しこのどん底生活、どん底生活と云ふ文字は只單なるどん底を意味したものでなく、女性のどん底生活は男性のそれに批して女性としてのどん底生活は、もう一層深いどん底か―どん底に突落されて居る事を感じます、いゝえ、事實に於て二重に虐げと迫害をうけて居るのです。

この二重的奴隷の現實を如實に味いつゝある私達と階級を同じくする者多くの女性に對して、私は私達の無自覺と意氣地のない事を悲しむと俱に、私達女性も矢張り一個の人類であり、矢張り社會の一構成分子の一である事に眼醒めていたゞきたいのです。

こうした事を考へる時に、且つて今迄で多く讀まされて來た處の女性に與へられた所謂名論が、それは餘りに現實と懸離れた高い理想であり、理論である事を今更痛切に感じ考へさせられます。成程婦人參政權の要求もいゝでせう。又公娼撤廢もいゝでせう。然しそれ等が何處から出發し何處から芽生へて行くものであるかを考へなければならないと思ひます、未だ階級的に自覺は、おろかの事女性そのものゝ人間的地位を完全に奪はれて居る事にすら氣附いて居らない全く盲目的な多くの女性に對して、そうした高い雲を攫むやうな理想や理論を與へられた處で所謂猫に黃判に等しいものと私は思います。

先づ私達無產階級の女性は、その階級的の立場にハッキリと目醒め、現在の社會制度が如何に私共階級を苦しめて居るかをヘッキリと見極め、そして女性としての人間的地位が現在では何の程度に置かれて居るかを知らなければならないと思います。

こうした自覺の上へ芽生へて往くものがあれ等の理想であり理論ではないでせうか？

又そうした自覺は、それ等の理論や理想が生れる畑としてのみに止まらず、それは全無產階級の解放戰線の擴大である事も異論をはさむ事の出來ない事實だと思います。

此の戰線の擴大とは何を意味するでせう？

それは且つて過ぎて來た日に私達が事實に味ふ事が出來得なかつたとしても、新聞、その他に依つて知り、又近くに見せつけられた勞働爭議の敗因を考へて少く共私達女性の覺醒は、その戰線を擴大ならしめ最も大きな鬪爭力を與へるものだと云ふ事は總ての認めて居られる事實だらうと思ひます。

何故ならば、私達の最も弱みとする處の力、それは團結の力、それ以外に何ものもあり得ないからです、先づ一より二へ、二より三へ小より中へ、中より大へと總てのものが運ばれて行くとするならば、矢張り此の團結そのものも小より大へと順を追ふて進んで行くのが當然でせう、又そうして順を追ふ事に依つてその基礎も完全になり行く事と思ひます、一家内の團結は、一工場の團結となり、そしてやがては全國の、全世界の團結となり行く事は最早言を多くする迄でもありません。

こうした意味から一家内の結束が不完全とするならば、それは砂上の樓閣に過ぎない只單なる裏面の握手に過ぎないのです、そしてその一家内に完全な結束が出來ると出來ないとは、私達女性の自覺の如何に依ると思ひます、否事實に於て女性の自覺に依つて決定されるのです。こう順を追ふて考へて來た時に此の當面してゐる重大な使命を遠ざけて十步も十五步も飛び離れた處にある、女權擴張だとか婦人參政だとかを女性として叫ぶ全部かのやうに騷ぎまはつて居る時でない事を全國の諸姉に訴へます。

階級戰爭に於ける女性の使命それは最も重大なるものです。權利の擴張も、政權の獲得も此のどん底にある無產階級が完全に眞の人間として解放され、そして人間としての最も幸福な無產階級の社會が實現される事に依つてそれ等の總てが達せられるのです。

先づ自己の足下をヘッキリと知らなければならない、そして鬪ふ可しです。

自己階級の解放に眞直ぐに突進せなければならないのです。

何處へ行く？

獄中にて　△△生

一

何處へ行く？
亡き母君の子宮にて
十月も包容したるこの[illegible]は

二

かにかくに
抛ち捨てたる男よな
褪せにし汝の蒼白き顏

三

顏瞑れば――
幼兒のごと笑み交はす
囚徒の氣の温かきかな

四

小春日の窓の光に背き起ち
瘦せ削り行く――
影を愛しむ

五

昨日より今日は一層
濃く近く
襲ひ迫れる生死の際

六

獄庭に飛行日和の天高し
十機
雁行
故鄕戀し

七

墓を發き父母を恨まむ
い、い、い、
あなうたて
貧しき俺の煩はしき生

八

噫此悲愴――
この虛偽は悉皆貧困と
正直者の生める同胞

九

貧乏は短氣なものよ
貧乏は儚きものよ
父母の護れる――

十

人生の多面を照す石もあらば
今切に欲し――
ラヴアに賭らむ

十

美を美として樂しむ事の出來ぬ
俺
直ぐ生活にくつつけて見る

十二

唸り叫ね
俺を嘲ける兇運の
大鴉の如く野分の羽搏く

十三

黑布を垂れたる窓に凭つかゝり
木枯に泣く
星を算へつ――

十四

知りつゝも
眞面目に意識して捨つる
わがこの生命　何かの爲に？

十五

一衣帶水――
中華の民の爭ふを
俺　牢に聞く易く悲し。

東北地方に於ける農民諸君へ

嘉生

東北地方に於ける農民諸君、諸君は我國に於ける最も純なる民として誇り來つた所の農民である。然しながら、滔々として、押しよせ來た。資本主義の洪水は諸君を小作農は無論のこと、中農と云はず、小農と云はず、併呑し、絶滅せずにはおかなかつた。中小農は先祖傳來の土地を奪はれ、その子弟に至るまで、賃銀を得糊口をしのがんために、或者は都會に、又或者は北海の地に去つたではないか。又小作農はその地主より投げ與へらるゝ僅なるパンのみにては到底生計し得ず、借地を返還せし今日、失業の惡鬼に脅かされつゝあるではないか。私は敢て諸君に問ふ。諸君より、土地を奪ひ、又一方失業の脅威に落し入れたる者は誰であるか。今や諸君は瀕死に迫つてゐる。然し乍ら諸君は尚默々としてゐるではないか、そは諸君はあまりに純朴なるためか、又諸君の敵の力があまりに強大なるためか、さもなくば、諸君は再び好景氣の來らんことを夢み、中小農の舊生活に戀々としてゐるか。かるが故に、諸君は十年一日の如く地主に對し犬馬の勞をとり、露骨なる、不合理極まる搾取に甘んじて來たのである。然し乍ら今私の問はんとするところは、かうした、意久地のない農民諸君ではない。私は信ずる、少くとも東北の農民諸君は最も正義と階級を愛する、底力のある人達であることを。東北の農民諸君 諸君は他地方に於ける農民とは違つて特殊の生活内にある。然しながら、地主より搾取されつゝある――然もより多く――と云ふ點に於ては更に異つた所はない。諸君は今貧乏をしてゐるのは諸君が働きがないためではないと云ふことは諸君は誰よりもはつきりと知つてゐる筈だ。そして、それは搾り取られつゝあるためだと云ふことをも。資本主義制度下、殊に土地私有制度に於ける農業程收益のない、然も進歩發達しないものはない。かてゝ加ふるに年々の生活の膨脹である。從つて借財は積るし、生活が困難に陷つて行くことは自明の理である。

茲に至つて農民諸君は二つの問題を考へなければならない。即ち、一は諸君の敵である所の搾取者階級をとり除くことゝ一は傳統二千年來の生産方法をかへることである。そしてこれを實現せしむるためには、小作人組合を作り團結の力で地主に當ることゝ、一方、諸君が最も神聖視してゐる所の土地の私有權尊重の觀念を葬ることである。

茲に至つて諸君は奴隷より人間への、正しき創造の社會に生き得るのである。最後に私は云ふ。諸君の唯一の味方は只社會主義あるのみであると。

手紙の中から

合同勞働組合 田中細土

T兄貴方はこう敎へて下さいました。事實の前に恐れて目を掩ふてはならないと。又、弱者は惡人だと。物持に成らなければならないと。其れには手蔓を求める事も必要だと。私は感謝して此の御敎訓を胸に深くきざんで居ります、しかし兄の良心を殺して大膽に成れ。弱肉強食は生存競爭の法則だから正當だ。どうでも金持に成らなければ駄目だ。其れには先輩のいゝ手蔓を求める事も大切だと。僕の解釋は此れとは大分違ひます事實の前に恐れて目を掩ふてはならないとは、(支那の、女の足をしめる習慣)てん足(國定教科書的學問)とアヘン(宗敎)常用の習慣を古ぞうりの樣に投げ捨てゝ、汚れない青年の目で、科學者の目で、大膽に其の病根を見究め間違ひのないメスで其のがんを切り取る事です。又、弱者は惡人だとは、弱者は惡人に負け、其の奴隷に成るからです。物持ちにならなければならないとは、内に智識があふれていなければ駄目だと云ふ事です。其れには先輩のいゝ手蔓を求める事も大切だと云はれました、私の敎へを受けつゝある先輩はマルクス、リープクネヒト、レーニン、片山潜、大杉榮、平澤計七、未だ未だ書ききれませんが。とにかく此の意味で、兄の御敎訓に、したがつて努力致して居ります。

一歩の前進

川崎生

◇農村問題の徹底的解決は今日の如き社會制度の下に於ては到底不可能であるから、農村疲弊は制度の缺陷による寄生蟲の存在にあるのだから。

◇曰く都會、ブルジョア、宗敎家、敎育者、お役人、これらのために農村は當然衰滅すべき運命を持つ。

◇小作爭議の調停、或は政黨屋の農村問題の解決策、共に、農村共倒れ策のみ。

◇先度の總選擧は老人對青年、政本對護憲、民衆對支配者の對抗であつた。普選を高唱し政治的團結の急を叫んだ青年は今一歩の線上に立つて黑幕に閉されてゐる。

◇資本主義・軍國主義はいよいよ其の本性を現しかけた。悲鳴をあげて最後の手段を選んだのだ。曰く國民全體の右傾化、軍國主義化を標榜する軍事敎育の施行だ。

◇人殺しと搾取の學術を敎ふるために正しく尊い自由であるべき敎育は犠牲にされるか。

◇さあれ思潮の流れと時代の推移は眞理と共にどうする事も出來まい。軍事敎育によつて統一された青年や少年が否……一般民衆が……他日必ず醒める秋が來はしないか?

◇軍事敎育を吾々は悲觀しはしない、むしろ吾々は是を利用するために欣ぶ。青年は今一歩前進の線上に立つ、吾々は青年が一歩退歩するとも更に統一された力で躍進することを信ずる、自覺せる無産青年はよろしく是を善用、指導すべきだ。

進め社便り

▲禁止に次に禁止をもつてせられ外形的に見て、分裂に次に分裂をもつて見られた、大正十三年度に於る、我が「進め社」は、果然十二月に入りて某重大事件てふ一片の流言のもとに、鈍腕なる當局諸君の一網打盡の幸運に合ひ、大阪の同人全部は留置所に日を經ること十日。家宅捜索の恩典に浴すること四回。家は亂れ家人は泣く、然れども吾人に生あり。生あれば足る即ち戰ふ。

▲我が進め社は、新春を迎ふると共に、斷々呼として社内の弊風を一掃し旗を帝都の中央芝區櫻田久保町十九に立て本部となしたり。無産階級戰鬪機關紙「進め」は茲に誕生第三週年を迎ふ。

▲編輯は、山崎今朝彌、石川準十郎の二氏專らこれに全力をあげ、稲田狂二氏は古城海老江にあつて尚大阪を捨ず。東西共に呼べは答へ、打てば響かんの新陣容のもとに、大正十四年度の戰端を開始せんとす。

捲土重來の「進め」を見よ。我社の意氣當に壯なり。壯なりと雖乾坤一擲の大事業もとより多難我社同人のみの好くするところにあらず。又我社同人のみの大事業にもあらず。事業の成功は只、戰はんとする無産階級の戰鬪遂行觀念の強因に待つてのみ。

▲吾人に戰欲勃々たり。諸君の血管に又熱血の高鳴あらば共に起たん。起て！（渡邊）

▲京都――大坂を轉々と何をするともなく（と言ふよりも社會がさせないから）全く夢遊病者にヒステリーをプラスしたやうに轉り廻つて居る裡に警察の方で見兼ねてか去る十一月二十二日から本月の六日の夜まで食はして寢かして呉れた。そして二日目か三日位には心切に餘り同じ處ではあきるだらうと云ふので福島（大坂）を振り出しに五六ケ所に而も自働車で以つて連れて行つて呉れる。

▲そのお蔭で未だ過去二十幾年に一度もそのお蔭を蒙らなかつた、所謂ブル文明の賜である、自働車に乘る事が出來た、今度警察に厄介になる迄では、全く自働車なんてものは、雨降りの日には、ドロをはね掛けられるか、晴天の日なれば顔を向ける事も出來ないやうな土壌を吹き揚げて、金三圓也の勞働服を眞白にしられる位處が自働車の否有難いブルジョア文明のお蔭けだと思つてゐたが、どうして／＼中々もつて「自働車たるものはだ」。

▲そしてその古今未曾有の長期檢束からやつと放さか何とか言ふ名目の下に外におつぽり出されて丁度三日目か四日目に東京に來た。

▲新しい陣容を建直して、大正十四年新春を迎へ一層の活躍をせんとする「進め社」の本部に、五尺八寸の體と言いたいが、五尺一寸の小さな體を落着けたのは十日朝

▲センテメンタリストの言ふ詩の都から、バラックの都に今新しく俺の新生命を開く可く道を見出した譯だ。

新春を迎へると共に俺の生命も新しく開ける。

全國の同志諸兄幸に建鬪あれ、特に詩の都の同志に重ねて建鬪されん事を祈る。（大致龍一郎）

▲働らかずに飯が食へれば結構な事だ。僕などは御多聞に漏れず全くその仲間の口だらう。原稿を書くでもなく、これと云つたものになる仕事をするのでもなく、朝起きて夜寢る迄食つてごろ／＼ししゐる位の事で、其間に一寸淋送の仕事をひま潰しにやるのがやつとの關の山だ。

▲考へて見ると横着で、働らく事の嫌な考へを持つた僕のやうな連中が相當斯うした團體に居る事だらう。時には自分ではづかしい樣な氣も起るが格別悔悟するとか改める氣持ちにもなれない。結局斯うして食つて、息の根が通つてゐれば不思議にこそ思はれるが大して惡くもないと思ふ。

▲今の僕には原稿など書く勇氣もなければ又書けるだけの値價もない。併し、これでもつい此間までは米來のレーニン位の處を夢見てしきりにあせつてゐたものだがそれが急に近頃になつてそうした希望も何もかも全くなくなつてしまつた。目下の處どうしやうかうしやうと云つた樣な大それた陰謀も野心もほとんど僕にはないと云つて良からう。但し、これがいつ迄續くか疑問であてにならないいつ又芽が出、翼が生へるやら知れたものでない。まだ／＼子供の事だから末が長いさ。

▲年の瀬が押しせまつて來た。東京の空も寒い。貧乏人が泣き出すだらう。追つけ救世軍の慈善鍋が活動するだらう。一錢入れてやらうと云う氣にもなれない。（辻山義雄）

▲我が「進め社」は捲土重來東京に戻つた。憶ひ起せば昨年九月、あの地震騒動に當つて主義者の多くは恨を呑んで都落したものであつたが、我が「進め社」はいち早く大阪に根城を移し、「進め」を發行して社會主義運動のため万丈の氣焔を擧げたものであつた。それがまた元の都に歸つて來た譯だ。

▲今度は刑場「鈴ケ森」と異り東都の中心新橋驛の近所だ「鈴ケ森」に居た頃は蓬髮の男が茂るかや等燒き拂つて刀を振つてたものだが、今度はさうは行かぬ。建物は二階建の大きな家だ。私は必要に應じて府下戸塚町諏訪の寓居から通つて來るだけだ。

▲私は稲田狂二氏と違つて「腕力」が弱いから、生れてこの方喧嘩して勝つたことはないが、然し「男兒死すとも盜泉を呑まず」と云ふ樣な志操を持つて居る積りだ。貧乏浪人でがうしてずつと通さうと思ふ「故鄕兄あり、雁鳴けば想ひ出す」病身の彼は弟をしてその遺志を次がしめんとして今尚私に浪費を作る。

□今度の編輯は大阪から來た大路君がドシや／＼つて呉れた。私はお傳ひした樣なものだ。編輯室の夜は寒い。遂に徹夜して了つた。隙間風が硝子窓を襲ふてガタ／＼する世は不景氣風が吹き荒んで居る。我々は石に嚙りついても戰はなければならぬ。（石川生）

▲進め社の本部が東京に移されたに就いて今度大阪からこちらへ參りました。東京は後にも先にも生れてから初めてゞ自慢にもなりません。併し、大阪などにくらべてすつかり氣分がいゝ事だけは確かです。向後こちらで會計と發送とを責任を以てやる意りですが勿論若輩の僕の事ですからどんな手落ちをやるとも分りません。そこはよく御諒解下すつて稍々御叱聲と御後援の程願つて置きます。

▲今後支局の設置方針を一層改めやうと思ひます。目下各地に支局が可成り澤山ありますが中には全然無意義な名目だけのものも相當にあります。これからは成可く支局の粗製濫造を防いで有意義な確かりしたものばかり造らへる考へです。支局をやつて下さる自信のある方は「支局規定」及「誓約書」とを請求して下さい。可否は熟考の上御通知致します。

▲毎度の事ですが誌代が相當に滯つてゐる支局が大分あります。正月早々こんな事を云ふのも濟まないが責任者の僕が甚だ困ます。何事も浮世の事は皆金じや――恐縮ですがどうか拂込んで下さい。

▲これは僕の係りではありませんが讀者諸君も支局各位も成りたけい、原稿を今後ウンと寄越して下さい。惡いのは掲せないが良いものはどし／＼掲せると編輯人が云つて居ります。（辻山義雄）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

研究資料

唯物史觀に於ける 經濟の概念

高畠素之

一 生物界並びに人類史上における生存競爭

マルクスは種々なる社會的活動の中から、特に生活資料の生產を際立つた位置に引き上げて、これに社會進化の決定的因子たる資格を與へた。彼に依れば、生活上の動機が人類行爲を支配するのであつて個人と個人、社會群と社會群との間の生存競爭は、ダーウヰンが生物進化史上に假定した所と同一の決定的役割を人類史上に演ずるものである。

が、生物學上の歷史について言つても、生存競爭なる概念は狹隘に過ぎる。蓋し各有機體間の競爭は單なる生存を目的としてのみ行はれるものではなく、更に出來得る限り豐富なる生存を得んが爲に行はれるからである。如何なる有機體も、單なる生存のみを追求するものでなく、更にそれ以上のものをも得んと努めてゐる。各自の有する一切の力をヨリ自由に發展し、一切の欲望及び衝動を益々完全に充足しようとして、執拗な鬪爭が行はれる。隨つて此鬪爭は止む時がなく、有機界はこれに依つて益々前方へ押し進められるのである。新なる段階に達すると、それが又新なる努力、新なる鬪爭の出發點となり、かくして此行程は無限に持續して行く。

人類史に在つては、尙更さうである。人類は自己保存欲以外にも幾多の欲望を有してゐて、その總てを充足しようと努める。勿論、食欲は凡ゆる欲望の中もつとも差し迫つたものであることは爭はれない。然し食欲が人類の行爲の上に決定的意義を有するといふ場合は、飢餓の脅威ある時に限るのである。而も人は單に食つて生きるのみでなく、また政治や、科學や藝術や、宗教などにも携はつてゐる。人が食ふか哲理を考へるかの二者いづれかを選ぶべき破目に立つ場合は極めて稀である。

唯物史觀なるものは、人間性の低級なる理解から出發し、人間行爲の高級なる動機を悉く——否認しないまでも——無視するといふ非難は、我々の屢聽くところである。マルクス及エンゲルスについて言へば、此非難は確に當つてゐる。彼等は人類行爲の種々雜多な動機の中から自己保存衝動だけを摘出して、そこに世界史の凡ゆる問題を解決すべき鍵鑰を見出したと信じてゐる。かくしてマルキシズムは社會生活の現實的事實と矛盾することになる。蓋し社會生活の現實は、自己保存欲に劣らず有力なる他の諸動機も存在してゐることを示すからである。尙また、人類史の客觀的批判をなすに當つては、認識衝動の如きそれ自體に於いては微弱なる衝動も、人類の運命に決定的の影響を及ぼし得るといふ事實を否認することは出來ない。蓋し人類の精神に、眞理の認識を求むる超利害的好奇心が働いて居らないとすれば、實生活上の欲望は如何に有力であるとは云つても、一切文明の基礎たるべき人知の壯大なる發達を呼び起すには至らなかつたであらう。

我々は、實生活上の欲望を現實的の意義以上に高く評價し過ぎてはならない。人間といふものは（ここに自然人は）無精な者であつて、直接快樂とならない事は容易にしようとしない。ラッツエルも言つてゐるが、低級なる民族の間で獨自に爲し遂げられた發明の數は至つて少いのである。彼等は極目近に在る事をも見落してしまふ。（ラッツエル著「人類地理」第二卷、七二頁）。將來の計を巡らすといふことは、自然人に於いては見られない現象であつて、かやうな心理的特徵を有する原始人間ので理知の活動がそれ自身一個の快樂たることなくして、何等か有用なる發明を呼び起すなどといふことは現實的には有りさうもない事實である。況んや文明人の間における科學の顯著なる發達を、單なる實利的の動機のみに依つて說明し去らんとするが如きは、無謀も極まれりと云はなければならぬ。如何なる純眞の研究者にとつても、理知の勞働なるものは、自己保存の本能とは心理的に何等共通する所なき最大の快樂となるものである。

二 經濟の概念

然らば唯物史觀なるものは、偏頗な見地に立つ欺瞞的な學說體系として一笑に付し去るべきであらうか。私はさうは考へない。寧ろ此學說は、改造が施されて、全く利用し得べき科學的の學說たらしめられ得るものと信じてゐる。

唯物史觀の腐朽的要素として第一に指摘すべきは、マルクス及びエンゲルスの歷史哲學說の出發點となつてゐる經濟に就いての錯誤的概念である。如何なる科學に於いても、其根本要素について豫め明確なる概念を得て置くことが必要である。然るにカントが曾て法律學を非難した通りの事が、今日も尙ほ經濟學について行はれてゐる。即ち經濟學の根底たるべき經濟なる概念が今尙ほ限定せられず、依然論爭の種となつてゐる事である。而してこれが延いては、攻學上非常なる混亂を釀すことになるのである。

多くの經濟學者——マルクスやエンゲルスも其例に洩れないのであるが——は、經濟の特徵をば充足すべき欲望の種類に求めた。マルクス及びエンゲルスに依れば、人類の活動は生存上に必要なる欲望（衣、食、住の欲望）を目的とするとき經濟となるのであつて、他の欲望の充足に役立つときは經濟とならない。

即ちエンゲルスは言ふ。——

『直接的生活の生產（歷史の決定要素たる）は、生活資料換言すれば衣食住の對象及びそれに必要なる諸道具の生產から成るものである』（エンゲルス著「家族、私有及國家の起原」第一版、序言、別丁頁）。彼は一八九四年に書いた書翰の中でも、同樣な主張を繰返してゐる。即ち『社會の決定的基礎として我々が認めてゐる經濟事情は、一定社會の人類が其生活を生產し、且つ生產物をば相互の間に交換する所の方法樣式を謂ふのである』（社會主義文書一九〇二年刊、第三卷、七四頁）。

此見解に對しては、次の如き反對論據を提出することが出來る。先づ生活上の欲望を、それ程に急迫的でない他の諸欲望との間に、一定の區劃線を引くことは不可能である。一例を擧げれば、美衣、贅澤などに對する欲望は、果して何れの種類に屬するものであるか。それが生活必需品に屬するものでないことは確である。然るにエンゲルスは衣類の生產を經濟の中に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

かぞへてゐる。

次に殆ど如何なる對象も、種々様々の欲望に役立ち得る。隨つて一定の活動が經濟であるか否かといふ事は、エンゲルスの立場からすれば全く確定し得ないことになつてしまふ。石を以て工場建物を造ることも出來れば、また宮殿を造ることも出來る。リンネルは馬鈴薯の袋ともなれば、また畫布ともなる。木材は机や卓子の材料にも使用され、樂器その他の物の材料にもなる。此見地からすれば、一切の生産は非經濟的活動に算入せられ得る。なぜならば、一切の生産は直接的生活以外の目的にも役立ち得るからである。

シユタムラーは此見地から出發して、經濟的活動と非經濟的活動との一切の區別を斷念し、社會經濟とは「諸欲望の充足を目的とする外部的に規制された共同行作」であるとしてゐる。（シユタムラー著「經濟と法律」一八九六年刊、一三九頁）。かくて彼は一切の社會的活動は社會生活の實質として見れば經濟であり社會生活の形式として見れば法律であるといふ結論に達した。かくの如くシユタムラーに依れば、社會經濟なる概念は社會生活における法律以外の一切を包含するものであるから、戰爭も、祭典も、芝居も、すべて社會經濟に屬することになつてしまふ。

此用語法が全く專斷に基いてゐることは、一目瞭然である。シユタムラーは社會生活の實質なる概念を必要としてゐたので、たまたまこれに社會經濟なる名稱を附したに過ぎない。新なる用語を造り出すことは、如何なる學者にとつても自由であるが、然しシユタムラーの謂ふやうに意味の經濟は、一般に經濟と稱せられてゐる所のものとは全く異つてゐる。通例の意議における經濟は、社生會活の實質それ自身を意味するものではなく、此實質の一部に過ぎないのである。一般の用語例から見ても、また科學の見地から判斷しても、經濟とは物的外界に向けられた人間行爲の總括に外ならず、諸欲望の充足に適應した物的條件の産出を目的とするものであるといひ得る。而して經濟的活動を非經濟的活動から區別するものは主として次の二要素である。——

（1）經濟的活動は必ず或目的に對する手段であることを要しない。經濟は欲望先足の手段を造り出すものであるが、然し此手段それ自身を意味するものではない。此點に於て、經濟は遊戲や、藝術や、而してそれ自身が目的である所の一切の活動から區別される。繪をかくことそれ自身を目的として作品をつくる行爲は經濟ではないが、或製造品の見本畫を畫くといふ場合には經濟となる。カール・ビュッアーは經濟を歴史的の現象と見て、原始人の活動は勞働ではなく遊戲であるとまで極言してゐる。彼れは言ふ。——「遊戲は勞働よりも古く、藝術は利用生産よりも古い」（ビュッヒアー著「國民經濟發生論第二版二四頁）と。此斷言は聊か誇張に失するやうに私には思はれる。自然人が食物を求めるのは遊戲ではなく、極めて骨の折れる勞働であるから。然し原始人の勞働と遊戲とは殆ど分化されて居らず、兩者の間に區劃線を引くことは困難なる場合が屢あるといふ點では、ビュッヒアーの言ふ所は確に當を得てゐる。此意味に於て、自然人の活動には經濟的の特徴が缺けてゐると言ふことが出來る。

消費はそれ自身が目的であるから、經濟ではない。經濟的活動は人類が消費の段階に入るとき止むのである。然らずんば、殆ど一切の生活活動は經濟となつてしまふであらう。なぜならば、殆ど一切の人間活動は、何等かの物的對象の消費と見做し得るからである。

（2）經濟は必ず。我々の生存の物的條件たる外部的自然に向けられてゐることを要する。此點に於いて經濟は、人間それ自身を對象とする諸種の活動から區別される。教師や、裁判官や、僧侶や、醫師などがする教育上、裁判上その他の活動は、決して經濟ではない。

經濟上の活動は、之れを内容の方面から觀察すれば、外部的自然を變化せしむる活動（生産及び貨物の運搬）、外部的自然に對して人類の空間的位置を變化せしむる活動（人の運搬）、外部的自然の對象に關する所有關係を變化せしむる活動（交換）等に區別される。これら一切の場合を通じて、人類の諸欲望を充足するに出來得る限り有利なる物的條件を造り出すことが、即ち經濟の目的となつてゐるのである。

三　一切の活動の基礎としての經濟

經濟が專ら自己保存衝動にのみ役立つを見るは、大なる誤りである。然るにマルクス及エンゲルスは、此錯誤に陷つてゐる。彼等は經濟を以て「直接的生活の生産」と同一視してゐるからである。彼等に依れば、人類の社會生活は生産條件に依つて支配されるのであるが、其生産條件とは生活上に缺くべからざる衣食住の生産條件を指すのである。かく解するとき、唯物史觀は人類の心理を正當に理解せざる極めて偏頗な歴史哲學說となつてしまふ。自己保存衝動なるものは、人類の行爲を決定する多くの衝動中の一つに過ぎないものであつて、生活上の條件は他の諸欲望の充足條件に依つても著しく影響される。

唯物史觀が斯く一方に偏したものとなつてしまふのは、畢竟その根底に横たはる經濟といふ概念が當を得て居らないからである。そこで若し如何なる勞働にしろ外部的自然の征服を目的とする限り、それに依つて充足せしめられる慾望の種類に關係なく經濟的勞働と呼び得るといふことになるとすれば、唯物史觀に對する多くの反對論は之れがため根底を失ふことになるであらう。斯く改造された唯物史觀は、もはや從來の唯物史觀の如く自己保存衝動にのみ偏することなく、觀念的動機の社會的意義をも充分に認めるものとなるのである。此改造唯物史觀の立場からすれば、人類の社會生活を支配する所の經濟は單に生活維持の目的に役立つのみでなく、又それに劣らず諸種の觀念的目的にも役立ち得ることになるのである。

勿論、經濟を斯く廣義に解したところでそれが果して社會秩序の基礎として認められ得るか何うかは疑問である。が、これに依つて唯物史觀は人類行爲の意識的動機の多樣性を無視するといふ、從來の唯物史觀に對しては寧ろ當然であつた非難から救はれることになる。

要するに、社會的欲望を經濟的（生活的）欲望と非經濟的欲望とに區分することが抑もの誤りであつて、充足上に經濟の貢獻を受けざる欲望といふものは存在しないのである。

例へば性の衝動は、樣々の重要なる經濟的活動を呼び起す。裝飾——ここに婦人の衣裳における——の大部分は、此心理的動機に基くものである。所で、裝飾品の生産

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

なるものは、極めて重要な一産業を構成してゐる。フランスの輸出貿易に於いては絹物が第一位を占め、文明諸國における幾百萬の勞働者は裝飾品の生産に從事してゐる。加之、人類の衣服は未だ曾て裝飾品たる本來の特徴を失つたことがないのである。

社會的衝動の中でも父母の愛は最も強いものであるが、それが人類經濟行爲の極めて有力なる動機となることは疑ひを容れない。一家の物質的幸福を確保しようとする努力は、人類の自然的惰性に打ち勝つて、有力なる經濟的活動に從事せしむべき誘因となる。現存經濟的秩序の根底の一つとなつてゐる相續制度の如きものも、本來は父母愛の心理的動機に立脚せるものであつた。同情及び共同の念慮なくして、人類の經濟は決してヨリ高き段階に進み得るものではない。何人も免れることの出來ない死は、遠き將來を目的とする一切の經濟行爲から、其合理的な目的を奪ひ去ることになるからである。栽殖、開墾等の如き產業の實行は、人類が他人（殊に一家の人々）のために自己一身の眼前的利害を犧牲に供することを辭しないといふ本能に多かれ少かれ立脚するものであるが、更に資本蓄積一般についても、或程度までは同樣のことが言ひ得るのである。人類が若し利己的動機のみに依つて動いてゐたとすれば、人類の經濟行爲には我々が事實上觀察する所とは全く異なつた方向が與へられることになつたであらう。

社會的の威力を得んとする努力が經濟的活動と密接に關聯してゐることも、右に劣らず明瞭な事實である。富は過去に於いても現在に於いても、つねに最大なる社會力の一つであり、また主として其意味から熱望されてゐるのであつて、巨萬の富を擁する資本家が進んで益々其富を蓄積しようとするのは、單なる享樂の動機や、經濟上の必要のみに依るのではない。如何なる成功的企業家も、たゞさうしようと思ひさへすれば、最大の努力緊張を要する現在の企業活動を以て安樂な債子生活者の平和的生活を營ひ得るからである。資本蓄積の最も重要なる心理的動機となるものは名譽心であつて、自己保存衝動の如きものでもなければ、享樂欲でもない。富はたゞ享樂手段たるに止まるものではなく、また權力手段ともなるのである。而して富の此後の意義は、殊なる政治の領域に於て特に著しく現れる。蓋し如何なる國の政治的權力も主として其經濟的權力に立脚してゐるからである。

次に審美的の欲望も、經濟的活動の一動機となり得る。經濟と藝術との關聯を最も明瞭に示すものは建築術である。が、例へば音樂の如き、實生活とは極めてかけ離れた藝術でさへも、經濟上の基礎を要するものであつて、ピアノやオルガンの如き複雜なる樂器を造るには產業上の技術が豫め著しく發達してゐることを要する。美しいオペラに依つて與へられる我々の快感が、それ自身に於いて經濟上の要素を含むものでないことは確である。たが此快感を可能ならしめる爲には、作曲家や歌手の才能以外に尚、經濟上の勞働に依つて造り出される樂器と、演劇に必要な一切の技術的設備を有する戯場とが與へられて居らなければならぬ。

科學についても同樣である。經濟に依つて造り出される物的基礎なくして、科學は發達し得るものでない。印刷業は一つの產業たる點に於いて、他の總ての產業と異る所はない。而して其發明は純經濟上の動機——生產費を節減せんとする努力に依つて呼び起されたものである。知識も亦產業と同樣に、特殊の勞働要具——器具——を有してゐる。我々は一時代の勞働具に依つて、其時代の經濟の如何を判斷し得る如く、科學上の器具の如何を見ることに依つて、其時代に到達された科學的認識の段階を推知することが出來る。然るに科學上の勞働要具の生產は經濟の領域に屬するものであるから、隨つて經濟は科學の物的基礎を構成するものとなるのである。

更に、宗教でさへも經濟上の基礎を有してゐる。建築術なるものは神殿の築造から發達して來たもので、今日に到る迄、神殿は建築上における最大最美の產物となつてゐる。ロシヤには村民擧つて聖像の製出に從事してゐる村落がある。聖像の生產地と雖も、一つの產業たることに變りはない。それは、極めて發達したる分業に立脚してゐるのである。

要するに、人類の有する一切の欲望は經濟的活動の誘因となるものであつて、これがため、又經濟の活動は他の凡ゆる活動の普遍的基礎となるのである。社會生活に於ける經濟の決定的意義は、單に「人は政治や、科學や、藝術や宗教などに携はり得る以前、先づ飲んだり、食つたり、着たりしなければならぬ」といふ事實に基くのみではなく、尚また「政治、科學其他のものは」經濟に依つて造らるべき物的基礎を有し、隨つて經濟とは不可分的の關係にあるといふ事實にも基くのである。社會的活動の如何なる領域を採つて考へても、活動上の物的條件をば其活動の特殊の一定した目的に適合せしむる事が第一歩となつてゐること、換言すれば凡ゆる活動の第一歩となるものは經濟であることを見出すであらう。

經濟が社會生活の中心を占める所以は茲にある。經濟を中心として種々樣々な社會的活動の線が八方に放射するのであつて、此等の放射線は經濟といふ中心に於いてのみ相互に接觸する。卽ち凡ゆる種類の社會的活動は經濟に依つて共通の聯絡を與へられることになるのである。而して中心に生ずる一切の現象が各放射線の上に反響しなければ止まないと同樣に、社會經濟の上に生ずる一切の深甚なる變化は、社會生活の凡ゆる方向に變化を生ぜしめなければ止まないのである。

さればと云つて、社會生活は卽ち經濟であるといふことにはならない。各放射線が中心と一致するのは、出發點についてのみ言ひ得ることであつて、出發點を遠ざかるに隨ひ此一致は益々稀薄になつて行く。社會的活動の種々なる領域における經濟の重要程度は決して同一なるものではない。生活上の勞働はそれ自身經濟であるが、他の欲望の充足に役立つ諸活動は、さうではない。例へば社會的威力を求むる努力に依つて呼び起される諸種の行爲は、經濟上の基礎を要するとは云へ、而も此基礎を越えて進展するものである。戰爭それ自身は決して經濟ではなく、其勝敗は交戰當事者の經濟的實力に依つてのみ決定されるものではない。ローマ帝國は經濟力低き蠻族の爲に破碎された。司法上の活動も同樣に經濟ではない。勿論、それが經濟上の基礎を要することは事實である。監獄を前提せずして近世の刑法を考へることは出來ない。監獄は築造せらるべきもので

あつて、經濟的活動の產物なることは言ふ迄もない。而もなるべく多くの囚徒を以て監獄を充滿せしめることが、司法官たる者の任務でない事は、我々の知る所である藝術は經濟を超絕すること最も著しいものである。凡ゆる美術の中で、比較的經濟と最も密接に關聯してゐるものは建築術であつて、ギリシヤ風の建築は建築用品の缺如してゐる國、例へばロシアの如きに於いては發達し得ない。反對にロシア風の建築は、森林の多き國にのみ發達し得るものである。とは云へ、美術としての建築術が單なる經濟の產物であるとは云ひ得ない。近世資本制度は絕大の經濟力を有してゐるに拘らず、何等獨特の新なる建築風を造り出すことが出來ず、過去の諸時代における建築風をば折衷的に模倣することを餘儀なくされてゐるといふ有樣ではないか。

科學及び哲學の繁榮も、單に經濟力に依つてのみ左右されるものではない。アメリカ合衆國は經濟力の點では世界の最强國であるに拘はらず、知識の點に於いては依然舊ヨーロッパの支配に隷從してゐる。

宗教に於いても、神殿の壯麗のみでは何うにも仕樣がない。初代キリスト教徒の禮拜は極めて單純質素であつたが、其宗教的熱情は强烈の絕頂に達してゐた。然るに壯麗無比の神殿を有する現代に在つては、世人の宗教的冷淡は益々甚だしくなつて行くのである。

要するに、人類の社會的行爲は種々樣々の活動から成るものであつて、此等の活動の總體は一の有機を成してゐる。その最下段を成すものは直接的生活資料の生產であつて、それから上段に進むに從ひ、總體の上に占むる經濟的勞働の關與分は益々小さくなる。即ち欲望が高級となるに從つて、その充足に役立つべき活動の上に演ずる經濟的勞働の役割は益々小さくなつて來るのである。高級の各活動は經濟から獨立したそれ自身の意義を有するものであるから、之れを經濟の受動的產物又は反映と見るは、極めて不當な見解といはねばならぬ。而して歷史の進步とは畢竟、人間生活の重心が低級なる生理上の欲望から高級なる精神上の欲望に移轉されることに外ならないものであるから、歷史の進行につれて經濟的要素の社會的意義は益々減退しなければならないことになるのである。――

▲本文はツガン、バラノヴスキー著『マルクス主義の學說的基礎』の一部を譯述したもので、近刊『唯物史觀の改造』（新潮社發行）中に收めてある。

近世社會主義史（四）

――ドイツ社會主義――

春田正

ラッサール（續き）

ラッサールによれば來るべき新世界を創るべきものは勞働者である。併し現在に於いては彼等は賃銀鐵則の鎖につながれてこの大使命を果すべき機會を持つて居ない。勞働者の平均賃銀は彼及彼の家族を辛うじて養ふに足るに過ぎない。若し勞働者の賃銀が騰貴した場合には彼等の間には結婚が多くなり子供が殖ゑる。それ等の子供が生長すれば勞働者となり勞働の供給が增加することになる。從つて賃銀は必然的に低下する。此に反して勞働者の賃銀が低い場合には結婚及出產が少くなり勞働の供給は減少し賃銀は再び騰貴する斯くして勞働者の賃銀は彼等の生活の或水準を常に上下してゐる。

然らば此の需要供給の法則による賃銀鐵則から勞働者を救ひ出し彼等を新時代の創造者たらしむるには何に依るべきか。ラッサールは此を國家によつて行はしむべきであると考へた。

元來彼の國家に對ずる見解は當時の自由派の連中とは全然異つて居た。自由派の人々が國家の機能は個人的自由及財產の保護にあるとしたに對し、彼は斯の如く國家を見ることは國家を夜盜に備へる夜警と誤認して居るものであると嘲笑し、より廣い國家の觀念を提示した。即ち國家は全人類の價値を實現する組織であつて、常に全人類の利益、幸福自由發達に對する援助の機關でなければならないと。故にラッサールは新時代の創造者を助けるために國家は勞働者の生產組合を援助すべきであると主張した。然し彼は以上を以て全社會問題を解結すべき萬能力であるとしたのではない。彼は資本家階級が支配權を持つて居る現代に科學の力及道德的制裁を待つて、政治的及產業的民主々義を持ち來らすことによつてよりよき時代への道を開き得ると考へたのである然し乍ら彼の主張は如何なる具體的效果を齎し得たか、彼の唱へた普選は施かれたが彼の要求した生產組合に對しては政府は何等手を染めなかつた。だが物の是非善惡は時の成功失敗の尺度を以て悉く之を判じることは出來ない。社會民主黨のことについては後章で見ることにしよう。

ロードベルトス

カール、ヨハン、ロードベルトスはプロシアの地主であり、法律家であつて、革命や、議論をも好まない篤學の士であつた。

彼は一八〇五年ドイツのダライフスワルドで生れた。彼の父は其の土地の大學の敎授であつた。彼は始め法律を學び種々法律の仕事に携はつて居たが後土地を買つて其處に居住し學究の生涯にはいつた。彼の公職の經驗は一八四八年プロシア國民議會の一員に選ばれた位のものであつた。彼は一八七五年に死んだ。

彼は社會主義を說き乍ら、政治上の意見は甚だ保守的であつて、專制主義、國家至上主義を信じて動かなかつた。彼は國家社會主義者中の典型ともいふべき人物であつて、他の社會主義が自由平等の觀念上に築き上げられたのに對し彼の說は常に專制主義的帝國主義的愛國精神を離れて存在しなかつた。從つてラッサール等の社會民主々義に對しては其の經濟上の信條には賛成したがその政治的方面即ち民主的な社會問題解結手段に關しては同情を持ち得なかつた。

ロードベルトスの勞働價値說はアダムスミス、リカルド、及後世の社會主義者と同じではあるがその適用に於いて獨持のものがある彼によれば地代利潤及賃銀は社會の勞働者の聯合せる組織勞働によつて生產せられた國家の收入の總てである。從つて賃銀は資本の中から支拂はれるのではなくて國家の收入の中から勞働者が受取るのである。然し茲に注意すべきことはその分配法である。此の分配に於いて勞働者は地主及資本家より甚だ僅の分前を强制される。そして賃銀鐵則等といふ情ない現象が存在するのである。而して此の分配の不公平がやがて勞働者の購買力を減じ、彼等をその消費者の大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

部分に持つ商業市場には恐慌が訪れる。ロートベルトスは社會の發展について人類の經濟的過程を三つの舞臺に區切つた。第一は古代の種族財産時代、第二は土地資本の私有財産時代、第三は勞働及功績による財産時代である。而して人類社會の決勝點は第三の共産的基礎の上に打ち立てられた社會である。而して此の社會に於いては土地資本は國家の財産となり、全國民の生産は國家の統制の下に行はれる。然し彼は斯の如き社會の實現迄には少くとも五世紀は要するであらうと考へた。故に彼の社會主義社會實現の手段は徐々に生産及分配の支配權を國家の手に移し、最後に社會主義社會を齎らすことであつた。

彼の學説は當時獨逸に於いて非常に影響を及ぼした。

カールマルクス

社會主義の歷史の中で最も偉大な名前は疑ひもなくカールマルクスである。彼は理論に於て或は實行に於て社會主義發達の上に最も重大な影響を與へて居る。今迄述べ來つた如く、マルクス以前の社會主義者中にも傾注すべき獨創的な思想家は少くなかつたが、一度び現代の社會思想及社會運動を理解せんとするにはマルクス及びエンゲルスの社會主義を無視しては不可能である。

カールマルクスは一八一八年フランスの國境に近いトリエルといふ所で生れた。父は辯護士で頭腦明晰而も惚れみ深いユダヤ人であつた。マルクスはボン及ベルリンの兩大學に學び法律を專攻したがその勉學の時間の多くは歷史學及哲學の爲めに費した。彼は熱心なヘーゲル哲學の研究者であり又彼の社會主義學説を打ち立てる上に於てもヘーゲルの哲學に負ふ所多大であつた一八四二年彼はライン新聞の寄稿家となり次いでその主筆となつたが、勉強の必要を感じ翌年パリへ行き熱心に經濟學及社會主義の研究に從事した。此處で彼は後世マルキシズムとして知られた社會主義及歷史觀の基礎を形作つたのである。又彼はパリに於て多くのフランスの社會主義者と交つた、殊にプルードンとは屡夜を徹して論じ合つたことがある。然し乍ら彼がベリーで合つた最も重大な人物は彼の生涯の友人であり、且つ彼の學説の紹介者であり公私共に彼の援助者であつたフリートツヒ、エンゲルス(一八二〇年生れ)であつた。一八四五年マルクスはプロシア政府の要求に基ゐてフランスから撤退を命ぜられブルッセルへ移つたが一八四八年の革命の騷擾に際してまた此處から追はれパリに行き間もなくケルンに歸つて新ライン新聞を起したが又追はれ三度パリへ行つた。所が又々此處を追はれてロンドンに赴き遂に此處に定住し專ら社會主義經濟學及革命に關する著述に沒頭した。然しながらロンドンに於ける彼の生活も一八六〇年代前後の比較的晴れやかな十年間を除いては眞に陰慘な生活であつた。窮迫と過勞による病患とが此の偉大なる思想家に與へられた社會及神よりの唯一の報酬であつたのだ。彼は知己エンゲルスを持つたことゝ彼の學説の偉大さが證明紹介されたことを除いては眞に不幸の内に一八八三年その六十五年の悲慘なる生涯を終つた。

マルクスの社會主義運動に關する實際的活躍は後章に現れるから此處では略し、彼の學説を一通り急行列車で見て行くことにしやう。

彼の學説の殆ど總ては彼の不朽の名著『資本論』三卷の中に納められてゐる。彼の社會主義が殊に重大な意義を持つのはその科學的見解による。此處に於いて人間の自由正義等の道義的概念のみに過度の信頼を置いた過去の社會主義と社會進化の必然性を説いたマルクス主義との間に截然たる區別が出來た。前者は空想的社會主義と呼ばれ後者は科學的社會主義の名を以て呼はれてゐる。

マルクスの全學説を通じてその指南車として採用されたのは唯物史觀と稱せられる所のものである。唯物史觀によれば經濟秩序が總ての社會秩序の土臺をなすものであつて、社會の法律政治等の上層建築物及宗教等は總てその經濟基礎に從つて説明せらるべきものである此の唯物史觀と共にマルクスの二大發見といはれてゐるのは餘剰價値論である。マルクスは現經濟組織の中心となつてゐる資本の起原及發達過程の神秘を餘剰價値の中に發見した。マルクスの餘剰價値説はその勞働價値説から出發する。一つの商品が他の商品と交換される場合決して無秩序になされるのではなくて、兩者の間にその交換尺度となるべき一定の内容即ち價値が存在して居る。そしてその價値の大小はその商品に具體化された所の人間の勞働量によつて決り、その勞働量は勞働時間によつて測定せられる。商品の價値は其の物を生産する爲めに社會的に必要なる勞働時間によつて決定せられるといふのが彼の主張する勞働價値論である。而してマルクスに依れば、原料を商品に變形し、原料を生産の場所へ移送する賃銀勞働者のみが唯一の價値の創造者である。

資本が資本としての役割を勤めるには次の三つのことが必要條件となる。(一)生産手段を獨專する階級、(二)自由ではあるが生産手段を有しない勞働階級(三)世界市場の商品交換制度、之である。

勞働具を有しない勞働者はその生活を維持するため、資本の所有者に對してその唯一の商品である勞働力を提供して賃銀を得る。所が此の賃銀はその勞働力に相當した價ではない。勞働力は賃銀以上のものを資本家の工場内で生産する。此の勞働者が賃銀の形で受取る價値と、勞働者が生産した生産物の價値との差を餘剰價値といふのである。であるから此の説に從へば資本家の收得する利潤(餘剰價値の現實的な形形)は勞働者の勞働生産物の一部を搾取したものに外ならなくなる。資本主義は此の餘剰價値のために發達し、資本家は利潤を獲得せんがために夢中になつてゐる、斯くして富は蓄積されるに至るのである。

マルクスは資本を二つの部分に分けた。一部分は器械原料等の生産機關に投ぜられるもので此を不變資本と呼び他は賃銀に使用せられるもので此を可變資本と名づけた。而して前者は生産過程に於いて價値を商品に轉化せしめる作用をなす丈であるが後者は新しい價値を作り出す。從つて後者のみが獨り資本唯一の存在の意義である餘剰價値を作り出すのである。(現競爭制度に於いて、商品を市場に供給するには出來る丈生産費を低廉にしなければいけない。そのためには最も効力のあるのは勞働生産力の増進である勞働生産力の増進は何による可きか。それは機械の採用及勞働組織の改善によらなければならない。從つて資本家は資本の不變部分を増大し、出來る丈新機械を採用すると共に可變資本の占める割合を少くする。從

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて勞働者が非常に増加してゐるに拘はれず可變部分によつて決せられる勞働の需要が狹められ勞働者の地位は愈不安さなる。結局資本主義は、資本の集中、生産進歩、消費の減少（勞働者が消費完の大部分であるから）恐慌勞働豫備軍（失業）等の現象を持ち來す。そして遂に資本主義組織の下に於いては最早産業世界の制御は不能さなり、斯くして社會的生産力さ無政府的個人的分配の間に横たはる矛盾が暴露される。即ち斯くして資本主義の必然的崩壊の要素が資本主義組織そのものゝ中で醱成されるのである。

扨て一方資本主義社會に於いては利害相反する二つの階級がある一はプロレタリアであり他はブルジョアである。此の兩者は常に勞働力賣買に關して反對の立場に立つ、前者は勞働力を高く賣らうさし、後者は之を出來る丈け安く買はうさする。之は單なる商業上の賣買の樣に見ゐるがその根底には生命の問題が横たはつてゐる。勞働者は勞働力を賣らなければ餓死する立場にあり、資本家は賣手の出樣によつては餓死せしめ得る立場にある。然し資本主義が益々進展し餘剩價値の事實が暴露されるにつれてプロレタリアの階級意識は益々明かになり階級的な團結が固く且強くなり兩者の間の階級鬪爭は極點に迄達する。（未完）

（十七頁より續く）

のか能を有せぬなれば罷業に對して暴擧さ言ひ得ない譯た……否々能を有せないが故に罷業を暴擧さ言ひ我等を市民の公敵さしたのであろう。

聞くところに依れば京都市電現業員内に在郷軍人分會が設置せらる由た其の主唱者は數年前友愛會を極定さした市電爭議當時の殊勳者であるそうた定めし建國の由來や忠君愛國を說いて思想の善導をせられる事であらう邦家の爲め御奮鬪を祈つて置く、たが軍人分會が建國の由來を說いても何處かの警察部長のやうに齋ひの御柱を建てて忠君愛國の宣傳をやつても疾病や疲勞や空腹や無學は癒へたり救はれたりは出來ないのた經典やバイブル歷史役人や坊主の力では此の不合理な世の中を何うすることも出來ないのた我等の力勞働者……最も多數を占める無産者の我等の自覺に依つてソルヂョアーの叢を啓いてやらねばならぬ我等の團結の力に依つて此の資本主義社會を征服するのたそれは無産者を救ふ事でもなんでもないプロレタリアートが天下を征服する事は世を救ふ事なんた神の意思た眞理た眞理は絶對たゞから我等勞働の力も社會に對して絶對であらねばならぬ

（十九頁より續く）

たに過ぎないのである。而して資本主義國家を形造るに適應した、諸制度を打ち建てたのである。畢竟政權を把握せる德川から資本家に政權が推移した事で、單に爲政者が更迭したに止まるのである。されば吾々無産階級に何等大した變動はなかつたので、要するに封建時代に批して物質的負擔さ、封建的壓制さを些か減輕されたに過ぎず、經濟上の搾取階級は依然さして、吾々無産の頭上に位して國家權力を背景さして、壓迫、迫害、專横を恣にしてゐるのである。

覺めて眼醒めたブルジョア階級は自己擁護の爲、即ち彼等徒黨の、社會的存立の安定を計る爲には、如何なる術策を弄するをも辭せないのである。彼等の前にはエゴイズム以外には何物もなく、全般のブルジョアは一種の審病に犯されてゐる態がある。されば他人を顧みるが如き人間的情緒のないのは蓋し當然の事である。農村の疲弊困憊は最早救濟の策無き狀態に在る。此の秋にして吾人は未たブルジョアの陋劣な阿片に醉ふを欲するや。全然さ起つて全日本に否全世界の無産者に向つて階級意識を喚起せしよ。それは畢竟するに我々プロレタリアの××の絶叫であり使命である。而して勇敢に階級鬪爭の渦中に投ぜざるべからず。

我々は飽迄正義の旗を押し立てゝ搾取に老獪、豺狼の資本家の撲滅を貫徹せざるべからず。

告示

本學恒例、大晦日より日本社會運動家越年懇談會（一名年越年首連續徹夜放談會）は、本學の都合上、本年に限り休止仕候條右其向へ公告す

東京芝區新櫻田町十九

獨立平民大學

追て實は本年は都下全各勞働組合のみに限る懇談會が大講堂に於て主催さるゝに付き止むを得ず右の通り依て、不惡、（總長山崎今朝彌）

會計規約

會計係では事務の都合上左の如く規定を設けてありますから左樣御承知下さい。

一、雜誌に關する問合せ、又は注文は必ず會計係宛になす事
二、會計係への用件は一切個人宛にせざる事
三、住所姓名は最も明瞭に書く事
四、見本希望の向は今後切手十錢を封入して申込む事
五、誌代は成る可く六ケ月分以上前納する事
六、本社は一切集金郵便又は代金引換郵便等を取扱はざる事
七、誌代切れ或は誌代前納なき場合は一切送本せざる事
八、誌代拂込は出來得る限り振替にして、振替の惡き場合は五厘及一錢五厘の切手を用ふ事（振替の裏面には用件を明記する事）
九、振替にて拂込む場合は今後は振替口座東京六九八五三進め社東京本部へ拂込む事、其他編輯部への用件、會計係への用件は何事に依らず東京本部宛にする事

大正十三年十二月定

■進め宣傳叢書　第一輯「社會運動に投ぜんさする青年に與ふ」はさきに發刊するや忽ち發賣禁止の厄に遭ひました。其後本社は第二輯の刊行に努めて居りますが種々の事情のために未た發刊の運びに至つて居りません。熱心な諸君の注文も相當に來て居りますが今少しく遲れるたらうさ思ひます。甚た諸君に對しては相濟まない次第ではありますがどうか惡しからず御諒解下さいます樣、勿論本社は出來得る限り早く出す事に努めて居りますから出來次第早速御送本します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◆東京市芝區新櫻田町十九 日本フェビアン協會發行（振替東京二七七五二番）

社會主義研究

第二卷 第三號 新年號

◆失業の個人的社會的意義……猪俣津南雄
▲癩疾の發作……（松下芳男）
▲根本的解決法……（安部磯雄）
◆白人共産黨と有色人種……稻垣守克
▲トロツキーと鼠……（高田隣德）
▲想片……（沖野岩三郎）
◆國家資本主義社會主義階梯としての……茂森唯士
▲アナトルフランスの死……（石川三四郎）
▲湖畔より……（信州講演會記）
◆勞動組合と政治……松永義雄
▲本部消息……
▲編輯後記
安部（米） 石川（佛）
尾瀨（露） 關口（中亞）
◆海外事情……
▲同志の影……（前田河廣一郎）
▲標語新聞社會……（諸坂二郎）
◆天下一に定まらん……安部磯雄

◆定價 三月八十五錢半年一圓六十五錢年三圓二十錢 冊（送料一錢）

第一卷合本出來（製本美麗）特價二圓送料廿錢

フェビアン、パンフレット（我等の態度）（定價十五錢送料二錢 安部直井山崎新居格）

山崎伯爵 痴作集
辯護士大安賣。珍品事件上告狀。北里博士等告發狀。澁澤子爵正力官房主事等謝罪文。米國伯爵自傳。其他數百篇。
送料共 一圓八十錢

山崎博士 創作集
偉大なる低能。チツトにタント、テロリにケロリ。地震飯（兵火事巡査。露國討つ可し、日本可からず。其他いろ〳〵
送料共 一圓二十錢

東京市芝區新櫻田町十九
平民大學發行
振替東京三一三七

◆民衆運動社の新らしい試み◆
民衆運動社では從來「民衆運動」小機關雜誌を發行して居たが、今度、雜誌の代りさして毎月「雜誌的ペンフレット」を出す事になつた。定價十錢から二十錢迄賣りたい人は相當の便利を計る。希み方は本社宛一報の事。それ〴〵相談に應じます。

△フェビアン協會の歴史と其の綱領 一部十五錢
現今フェビアニズム研究の最好書。（マックス、ベアー著）

△レーニン會見記 一部十錢
今は逝去、赤露革命の傑雄レーニンとの會見記。レーニンを知らんとするもの、此の書を讀みて崩然、眼前に髣髴たり。（吉田一著）

△極東大會に參加して 一部二十錢
露西亞革命後最初の極東勞働者大會に參加したる其の記錄危險極まる露西亞入りの慘膽たる苦心、宛然、其の經路は探偵小說以上の面白さ而して、一面今や我國社會運動及勞働運動界は滔々として第二インタアナショナリズムに走らんとする時、此の小著は正に頂門の一針として更に我等には何者かを敎へんとする。此の書を讀みて感慨、今更らに深い。（吉田執筆）

發行所 東京府下駒澤村字深澤三〇七 民衆運動社

栗栖七郎著
水平審判の日
定價壹圓 書留料拾貳錢

栗栖七郎述
水平運動の精神
定價參拾錢 郵稅貳錢

發行所 大阪市南區榮町二ノ五三
大阪水平社本部
振替大阪六七三六番

木藤精一郎個人雜誌
特種雜誌
一年五圓 一部十錢
大阪市北區小松原町
發行所 キトウ社

安部磯雄、猪股津南雄執筆
社會主義研究 合本
一部送料共貳圓
東京市芝區櫻田町十九
日本フェビアン協會
振替東京二七七五二番

柔道 撃劍
敎授
日新會道場
會長 大沼晴直
本部 東京市牛込區市ケ谷富久町一三 電話九段三一八一一番

◆社會主義図書雑誌
◆社會問題パンフレット
◆勞働問題リーフレット
◆婦人問題販賣店

上西書店

神戸市湊川町二丁目十六番地
支店湊川公園前百貨店廿一號

金銀
白金

徳力本店

東京市神田區松田町

仁丹

アサヒ黒ビール

御進物用最適品
清涼飲料リボンシトロン

婦人良薬

喜谷實母散

産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
▲全國到る處に販賣す

本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋 五五番 五六番

血を以て我民衆に洗體するもの

前號發禁

新人

新年號出づ！

本號に限 四十錢
半年 一圓八十錢

【要目】

[卷頭言]……赤松克麿
軍事教育と其僞瞞……山川均
軍事教育の意義……青野秀吉
無産階級の藝術……麻生久
世界革命の一要素……片山潜
ヤソ教と社會主義……堺利彦
無産青年運動……田所輝明
彼等を見よ……猪俣津南雄
レオンの演説……前田河廣一郎
兩インタナショナルの抗爭……山崎一雄
英國勞働黨の立場……早坂二郎
小さい針の音（童話）……小川未明
童話或る停車塲（創作）……麻生久
[詩・狀・満・等々]

東京市外池袋一六三〇番地
新人社
振替・東京六六二四八

進め社法律顧問

赤坂表町一丁目一番地
（辨慶橋前）

辯護士
辨理士
法學士
久保山武雄

電話高輪五〇五四番

精工舎時計

歐米時計類
眼鏡双眼鏡
測量諸器械
プラチナ地金
ダイヤモンド
紀念盃徽章
寶石指環類
各種裝身具

服部時計店

東京銀座二丁目

良品廉賣

松坂屋

いとう呉服店

大阪市日本橋三丁目

名古屋市中區榮町

◇大阪長堀橋◇

高島屋呉服店

◇京都烏丸……東京京橋◇

大丸呉服店

東京驛前

大阪　京都　神戸　金澤

The Su sn me Socialisis Monthly· Head affice
No 19 Sakurada Kubomachi Shiba Tokyo.

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 毎月一回 發行所 東京市芝區櫻田久保町十九(振替東京六九八五三) 進め社

不斷の努力を捧げて

絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標語として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を加へつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店内の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管華客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上ます。

地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尚その御手引として御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附申し上ます。

三越呉服店

大阪・高麗橋

サン瓦斯入電球

電氣が少しで
丈夫で明るい

良いものは
結局お徳

大阪市外大仁七〇

大阪電球株式會社

電話土佐堀長 二一六〇 三一六一 三八二一 三八三二